

第6期富田林市障がい福祉計画・
第2期富田林市障がい児福祉計画
策定における調査報告書

令和2年10月

富田林市

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査設計	1
3. 回収状況	1
4. 報告書の見方	1
5. 調査の回答者	1
第2章 調査結果	2
1. 障がいのある本人について	2
2. 障がい福祉サービスの利用希望等について	8
3. 障がい児通所サービスの利用状況と利用希望について	19
4. 外出について	25
5. 就労について	29
6. 在宅時の介助について	33
7. 地域での生活について	40

第1章 調査の概要

1. 調査目的

「第6期富田林市障がい福祉計画・第2期障がい児福祉計画」の策定にあたり、障がい者手帳をお持ちの方を中心に、障がい福祉サービスの利用状況や今後の利用意向等を把握するためアンケート調査を実施しました。

2. 調査について

調査対象…富田林市内在住の障がい者手帳所持者、または障がい福祉サービス利用者のうち、1,500人を無作為抽出

調査方法…郵送による配布・回収

調査期間…令和2年7月1日から令和2年7月31日まで

3. 回収状況

配布数	有効回答数（総回答数）	有効回答率
1,500件	891件（895件）	59.4%

4. 報告書の見方

- ① 回答比率（%）は、各質問の回答者数（n）を100%として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して表示している。（比率の合計が100.0%にならない場合がある。）
- ② 図表上の「MA%」という表記は複数回答（Multiple Answer の略）の意味であり、この場合の回答比率（%）の合計は100%を超えることがある。
- ③ 図表において、回答選択肢の見出しを簡略化している場合がある。
- ④ 「全体」には、障がい者手帳所持者の他に、同手帳の不所持者及び所持不明者（無回答）の方を含めているため、障がい種別ごとの合計とは合致しない。

5. 調査の回答者

障がい種別	調査数	宛名の本人	本人意見の代筆	家族等支援者の意見	その他	無回答
全体	891人	458人	127人	222人	13人	71人
身体障がい	428人	266人	59人	71人	5人	27人
知的障がい	334人	52人	57人	188人	9人	28人
精神障がい	214人	151人	27人	19人	2人	15人
手帳なし	13人	9人	2人	1人	0人	1人
無回答	15人	4人	0人	0人	0人	11人

※複数の障がい者手帳を所持している方もいるため、「全体」と内訳合計の人数は合致しない。

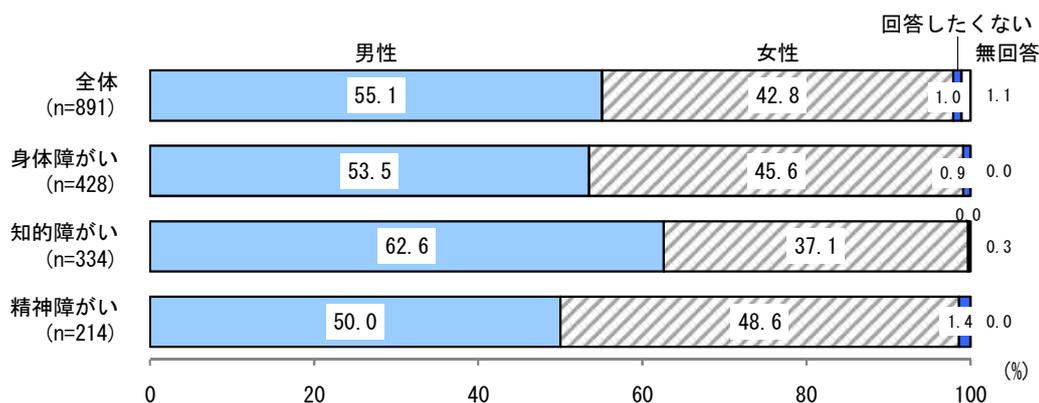
第2章 調査結果

1. 障がいのある本人について

(1) 性別

問1 あなたの性別をおうかがいします。(1つに○)

【図1-1 性別】



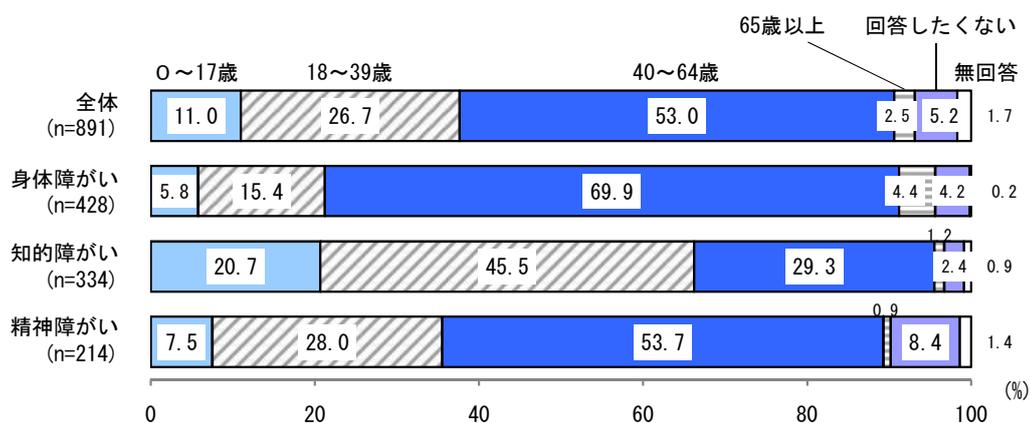
性別について、全体では「男性」が55.1%、「女性」は42.8%となっている。

障がい種別でみると、精神障がいのある人の男女比は同程度であるが、身体障がいのある人及び知的障がいのある人は「男性」の回答者が多くなっている。(図1-1)

(2) 年齢

問2 あなたの年齢をおうかがいします。(令和2年7月1日現在)

【図1-2 年齢】



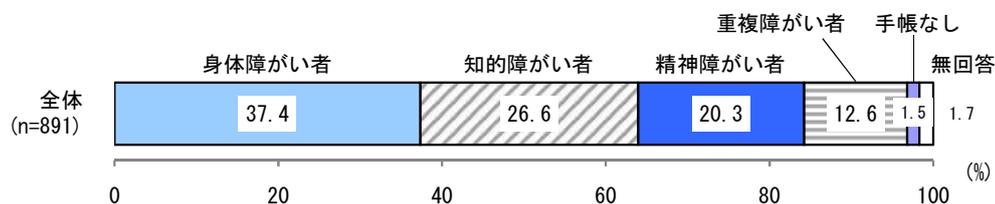
年齢について、全体では「40~64歳」が53.0%で最も多く、次いで「18~39歳」が26.7%、「0~17歳」が11.0%、「65歳以上」が2.5%となっている。

障がい種別でみると、それぞれ最も多いのは、身体障がいのある人は「40~64歳」の69.9%、同じく知的障がいのある人は「18~39歳」の45.5%、精神障がいのある人は「40~64歳」の53.7%となっている。(図1-2)

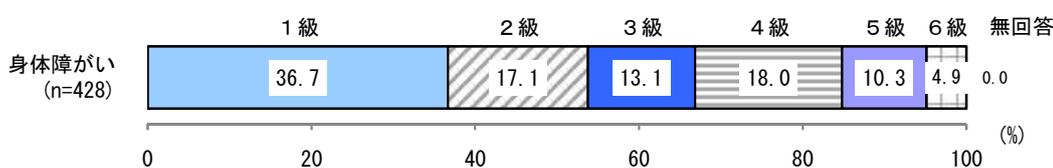
(3) 障がい者手帳の所持状況

問3 あなたはどの手帳をお持ちですか。手帳の等級もお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

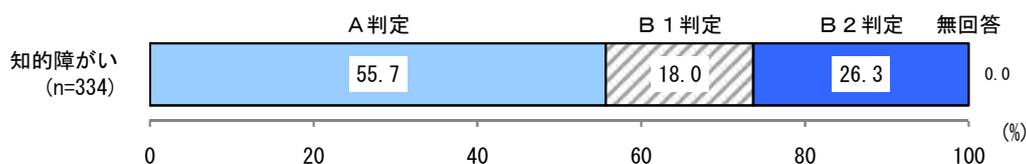
【図1-3 障がい区分】



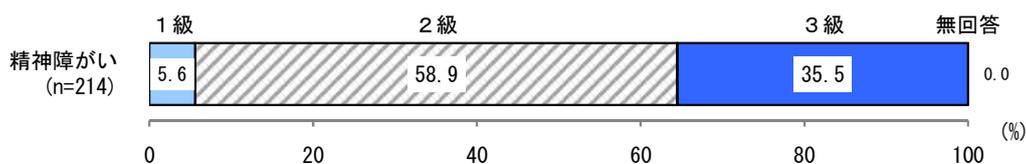
【図1-3-1 身体障がい者手帳の等級】



【図1-3-2 療育手帳の等級】



【図1-3-3 精神障がい保健福祉手帳の等級】



障がい者手帳の所持状況から障がい区分をみると、「身体障がい者」が37.4%、「知的障がい者」が26.6%、「精神障がい者」が20.3%、「重複障がい者」が12.6%となっている。(図1-3)

身体障がい者手帳所持者の等級をみると、「1級」が36.7%で最も多く、次いで「4級」が18.0%、「2級」が17.1%となっている。また、重度(1級・2級)は53.8%、中度(3級・4級)は31.1%、軽度(5級・6級)は15.2%となっている。(図1-3-1)

療育手帳所持者の等級をみると、「A判定」が55.7%で最も多く、次いで「B 2判定」が26.3%、「B 1判定」が18.0%となっている。(図1-3-2)

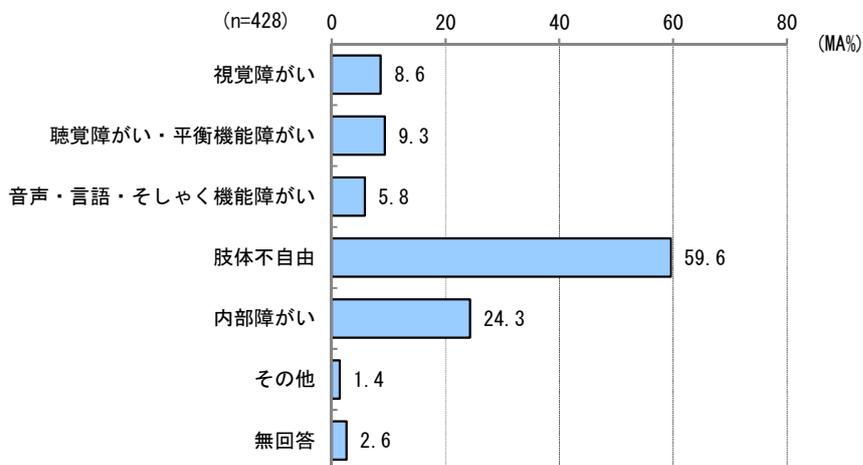
精神障がい者保健福祉手帳所持者の等級をみると、「2級」が58.9%で最も多く、次いで「3級」が35.5%、「1級」が5.6%となっている。(図1-3-3)

(4) 身体障がいの内容

身体障がい者手帳をお持ちの方におうかがいします。

問4 どのような障がいですか。(あてはまるものすべてに○)

【図1-4 身体障がいの内容】



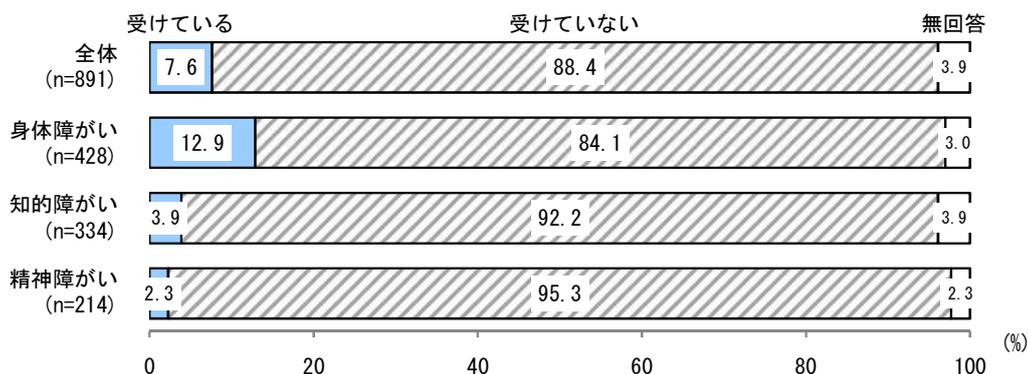
【身体障がい者手帳所持者のみ回答】

身体障がい者の障がいの内容については、「肢体不自由」が59.6%で最も多く、次いで「内部障がい」が24.3%、「聴覚障がい・平衡機能障がい」が9.3%となっている。(図1-4)

(5) 難病認定の有無

問5 あなたは、難病の認定を受けていますか。(1つに○)

【図1-5 難病の認定有無】



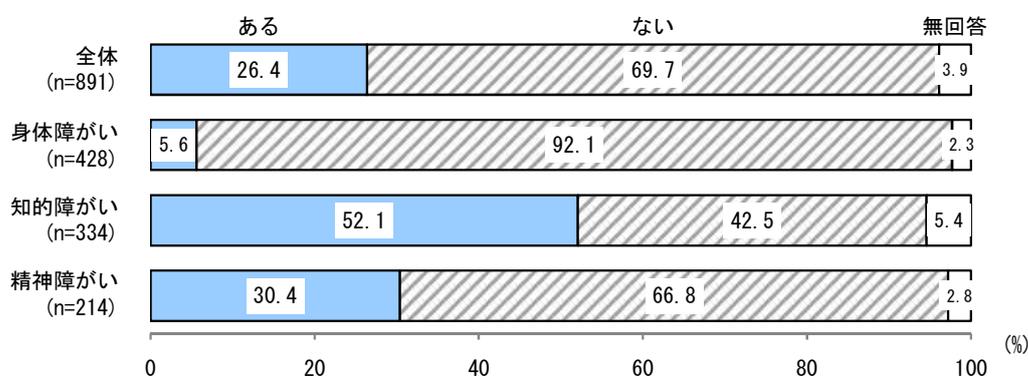
難病の認定有無について、全体では「受けている」が7.6%となっている。

障がい種別でみると、「受けている」割合は、身体障がいのある人で12.9%、知的障がいのある人で3.9%、精神障がいのある人で2.3%となっている。(図1-5)

(6) 発達障がいの診断有無

問6 あなたは、発達障がいと診断されたことがありますか。(1つに○)

【図1-6 発達障がいの診断有無】

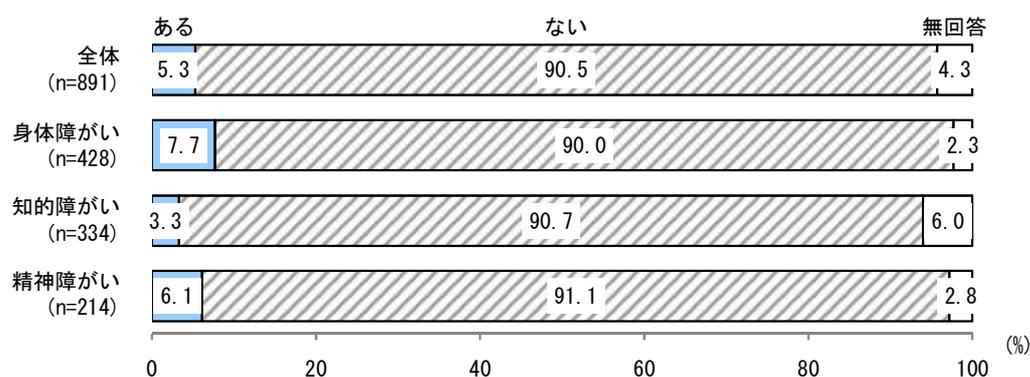


発達障がいと診断されたことがあるかについて、全体では「ある」が26.4%となっている。障がい種別でみると、「(診断されたことが) ある」割合は、身体障がいのある人で5.6%、知的障がいのある人で52.1%、精神障がいのある人で30.4%となっている。(図1-6)

(7) 高次脳機能障がいの診断有無

問7 あなたは、高次脳機能障がいと診断されたことがありますか。(1つに○)

【図1-7 高次脳機能障がいの診断有無】



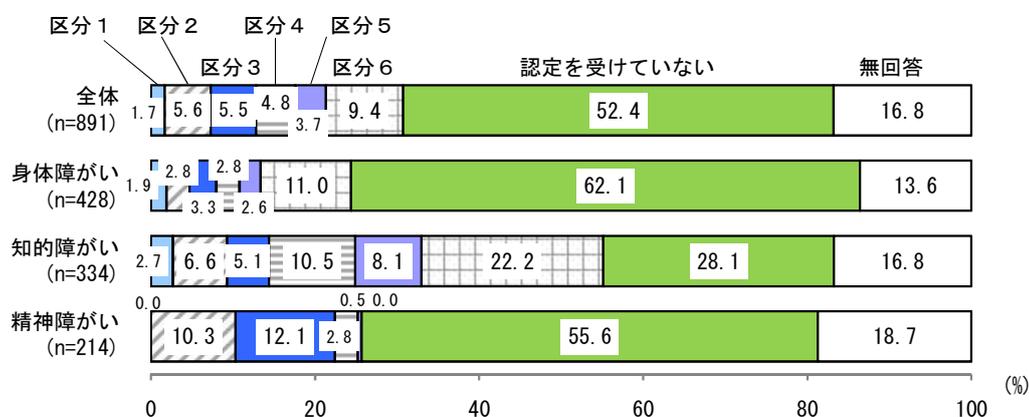
高次脳機能障がいと診断されたことがあるかについて、全体では「ある」が5.3%となっている。

障がい種別でみると、「(診断されたことが) ある」割合は、身体障がいのある人で7.7%、知的障がいのある人で3.3%、精神障がいのある人で6.1%となっている。(図1-7)

(8) 障がい支援区分認定の有無

問8 あなたは障がい支援区分認定を受けていますか。(1つに○)

【図1-8 障がい支援区分認定の有無】



障がい支援区分認定について、全体では障がい支援区分認定を受けている人は30.7%、そのうち「区分6」が9.4%で最も多く、次いで「区分2」が5.6%、「区分3」が5.5%となっている。

障がい種別でみると、身体障がいのある人で障がい支援区分認定を受けている人は24.4%、そのうち「区分6」が11.0%で最も多く、次いで「区分3」が3.3%となっている。

知的障がいのある人で障がい支援区分認定を受けている人は55.2%、そのうち「区分6」が22.2%で最も多く、次いで「区分4」が10.5%となっている。

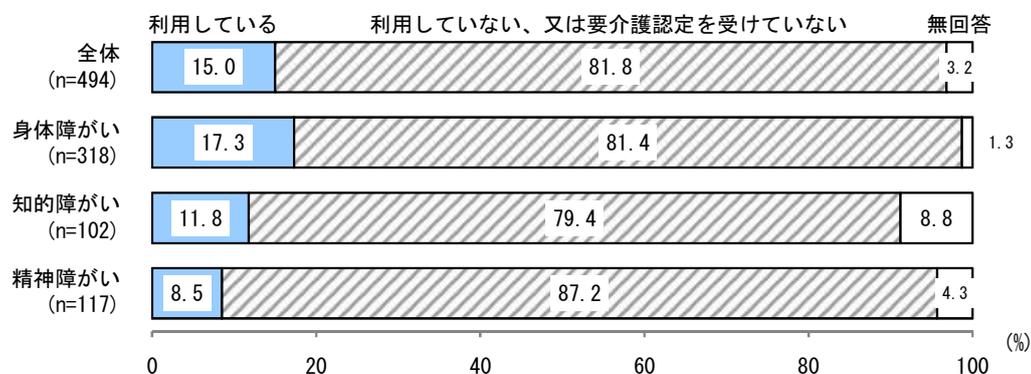
精神障がいのある人で障がい支援区分認定を受けている人は25.7%、そのうち「区分3」が12.1%で最も多く、次いで「区分2」が10.3%となっている。(図1-8)

(9) 介護保険サービスの利用の有無

40歳以上（令和2年7月1日現在）の方におうかがいします。

問9 あなたは「介護保険制度」による介護サービスを利用していますか。（1つに○）

【図1-9 介護保険サービスの利用有無】



【40歳以上の人のみ回答】

介護保険サービスの利用について、全体では「利用している」が15.0%となっている。

障がい種別でみると、「利用している」割合は、身体障がいのある人で17.3%、知的障がいのある人で11.8%、精神障がいのある人で8.5%となっている。（図1-9）

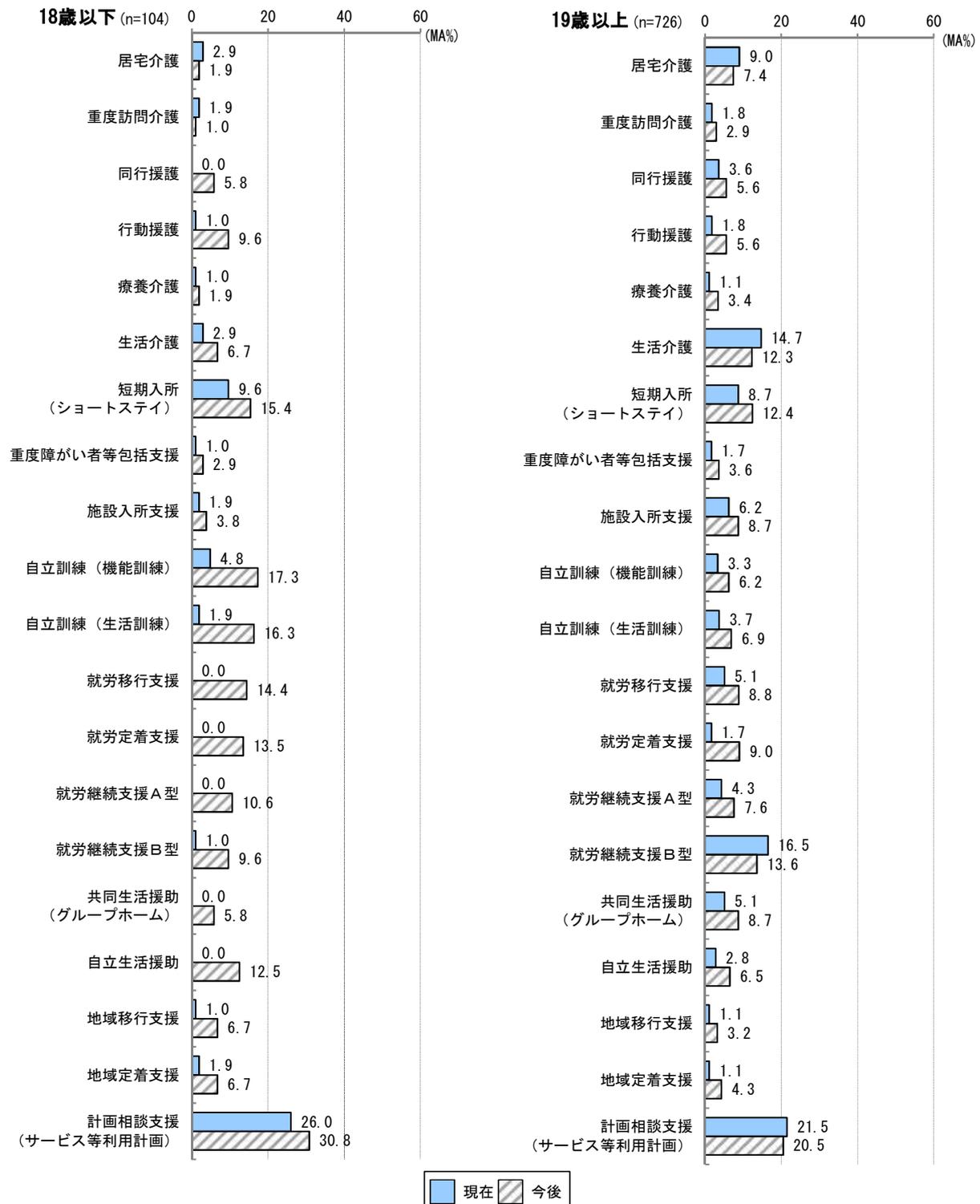
2. 障がい福祉サービスの利用希望等について

(1) 福祉サービスの利用状況と利用意向

問10 あなたは次の福祉サービスを利用していますか。また、今後（3年以内目安）に、これらを利用したいという具体的な希望がありますか。

(①現在、②今後、それぞれ1つに○)

【図2-1-1 年齢別 自立支援給付の利用状況と利用意向（全体）】

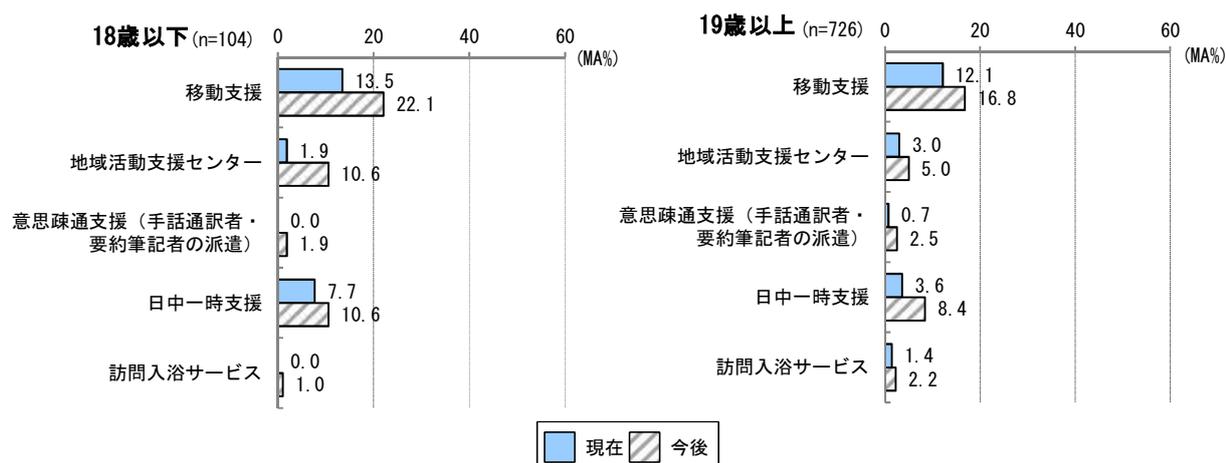


※現在は「利用している」、今後は「利用したい」と回答した割合のみ。

自立支援給付の利用状況と利用意向について、18歳以下の人で、現在利用している自立支援給付のサービスは「計画相談支援（サービス等利用計画）」が26.0%で最も多く、次いで「短期入所（ショートステイ）」が9.6%、「自立訓練（機能訓練）」が4.8%となっており、いずれのサービスも「利用していない」は55.8%であった。一方、今後利用したい自立支援給付のサービスは「計画相談支援（サービス等利用計画）」が30.8%で最も多く、次いで「自立訓練（機能訓練）」が17.3%、「自立訓練（生活訓練）」が16.3%となっており、いずれのサービスも「利用希望はない」は20.2%であった。

19歳以上の人で、現在利用している自立支援給付のサービスは「計画相談支援（サービス等利用計画）」が21.5%で最も多く、次いで「就労継続支援B型」が16.5%、「生活介護」が14.7%となっており、いずれのサービスも「利用していない」は38.6%であった。一方、今後利用したいサービスは「計画相談支援（サービス等利用計画）」が20.5%で最も多く、次いで「就労継続支援B型」が13.6%、「短期入所（ショートステイ）」が12.4%となっており、いずれのサービスも「利用希望はない」は17.9%であった。（図2-1-1）

【図2-1-2 年齢別 地域生活支援事業の利用状況と利用意向（全体）】

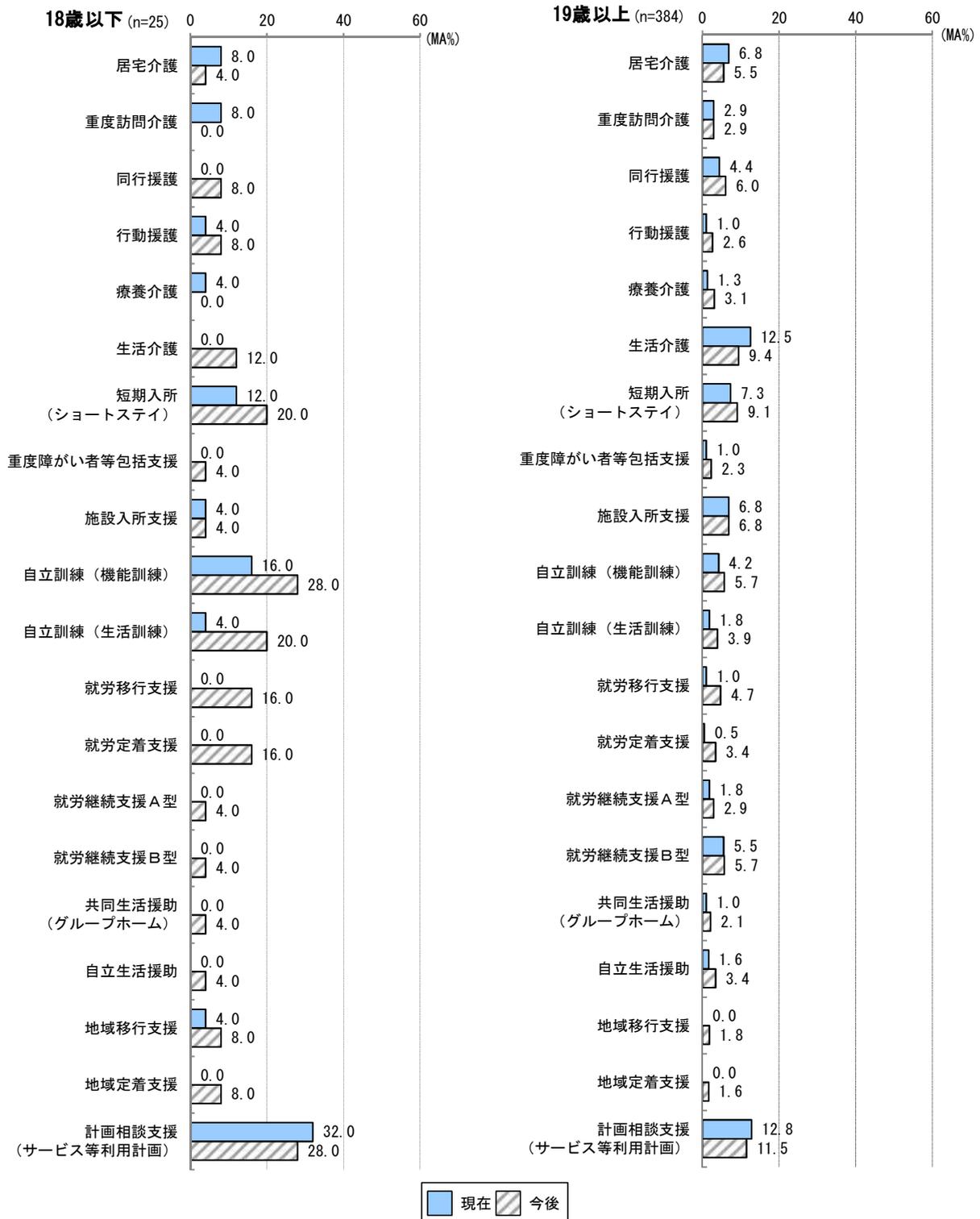


※現在は「利用している」、今後は「利用したい」と回答した割合のみ。

地域生活支援事業の利用状況と利用意向について、18歳以下の人で、現在利用している地域生活支援事業のサービスは「移動支援」が13.5%で最も多く、次いで「日中一時支援」が7.7%、「地域活動支援センター」が1.9%となっており、いずれのサービスも「利用していない」は67.3%であった。一方、今後利用したい地域生活支援事業のサービスは「移動支援」が22.1%で最も多く、次いで「地域活動支援センター」と「日中一時支援」がともに10.6%となっており、いずれのサービスも「利用希望はない」は31.7%であった。

19歳以上の人で、現在利用している地域生活支援事業のサービスは「移動支援」が12.1%で最も多く、次いで「日中一時支援」が3.6%、「地域活動支援センター」が3.0%となっており、いずれのサービスも「利用していない」は64.0%であった。一方、今後利用したい地域生活支援事業のサービスは「移動支援」が16.8%で最も多く、次いで「日中一時支援」が8.4%、「地域活動支援センター」が5.0%となっており、いずれのサービスも「利用希望はない」は32.6%であった。（図2-1-2）

【図2-1-3 年齢別 自立支援給付の利用状況と利用意向（身体障がい）】



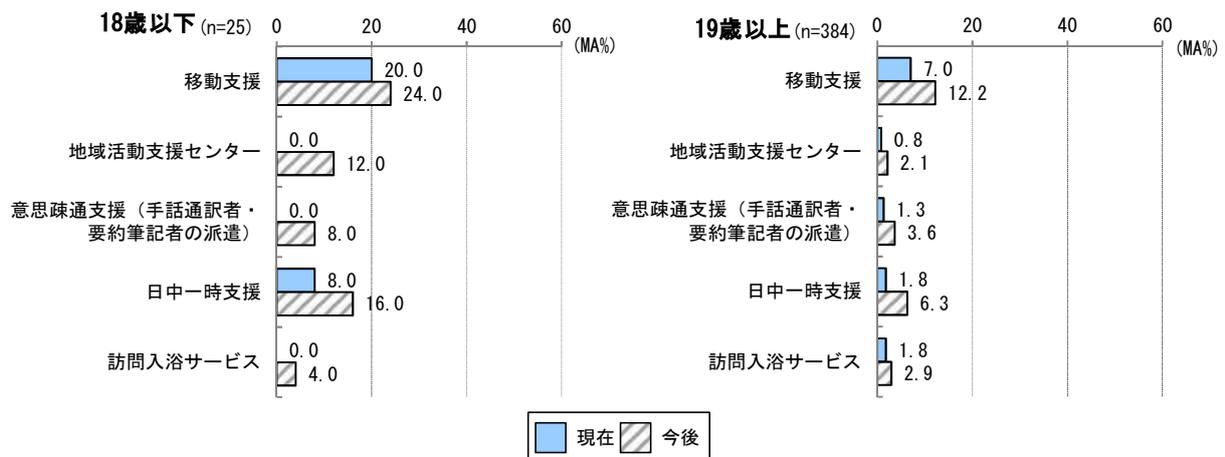
※現在は「利用している」、今後は「利用したい」と回答した割合のみ。

身体障がいのある18歳以下の人で、現在利用している自立支援給付のサービスは「計画相談支援（サービス等利用計画）」が32.0%で最も多く、次いで「自立訓練（機能訓練）」が16.0%、「短期入所（ショートステイ）」が12.0%となっており、いずれのサービスも「利用していない」は44.0%であった。一方、今後利用したい自立支援給付のサービスは「自立訓練（機能訓練）」と「計画相談支援（サービス等利用計画）」がともに28.0%で最も多く、次いで「短期入所（ショートステイ）」と「自立訓練（生活訓練）」がともに20.0%となっており、いずれのサービスも「利用希望はない」は20.0%であった。

身体障がいのある19歳以上の人で、現在利用している自立支援給付のサービスは「計画相談支援（サービス等利用計画）」が12.8%で最も多く、次いで「生活介護」が12.5%、「短期入所（ショートステイ）」が7.3%となっており、いずれのサービスも「利用していない」は57.6%であった。一方、今後利用したい自立支援給付のサービスは「計画相談支援（サービス等利用計画）」が11.5%で最も多く、次いで「生活介護」が9.4%、「短期入所（ショートステイ）」が9.1%となっており、いずれのサービスも「利用希望はない」は30.5%であった。

(図2-1-3)

【図2-1-4 年齢別 地域生活支援事業の利用状況と利用意向（身体障がい）】

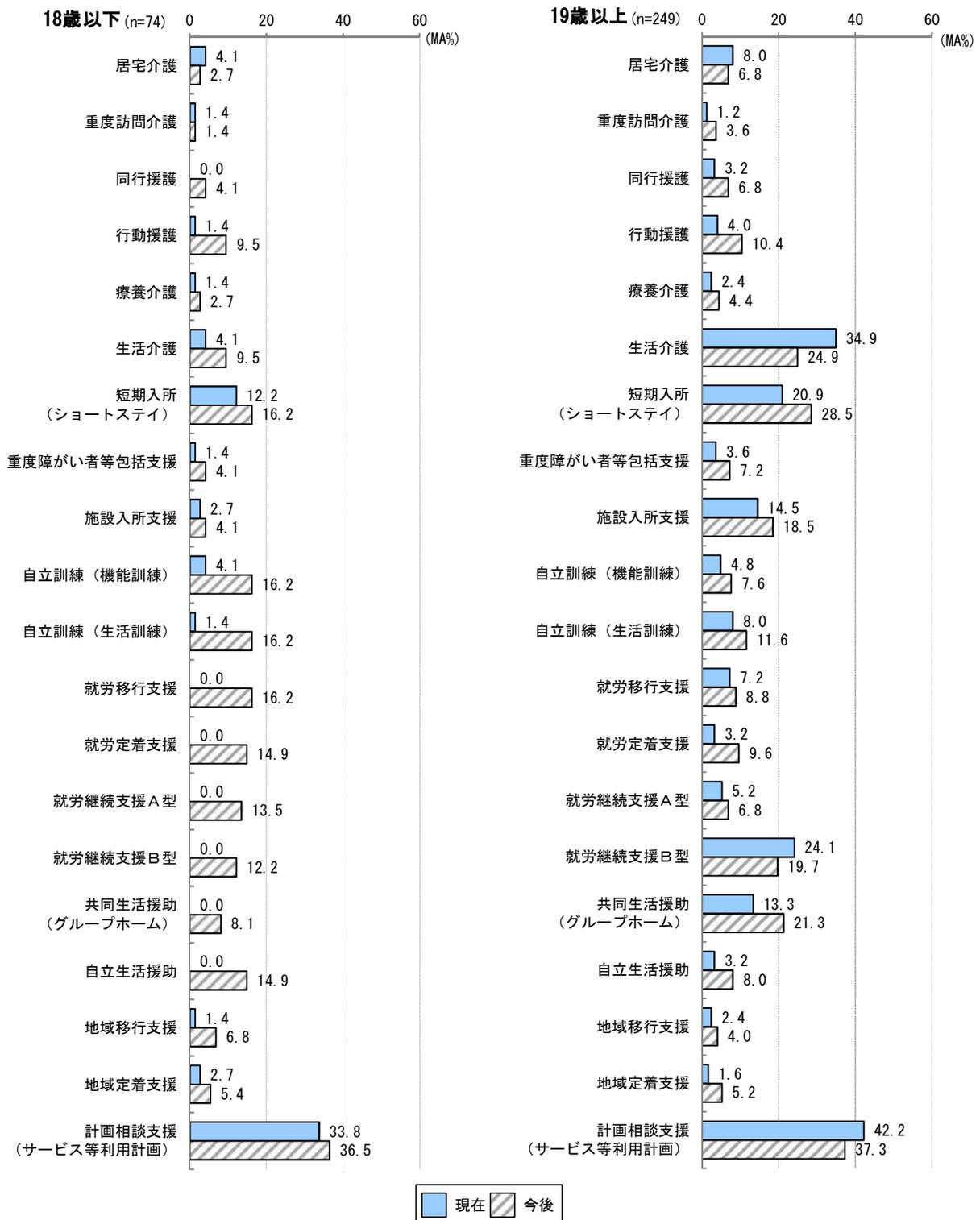


※現在は「利用している」、今後は「利用したい」と回答した割合のみ。

身体障がいのある18歳以下の人で、現在利用している地域生活支援事業のサービスは「移動支援」が20.0%で最も多く、次いで「日中一時支援」が8.0%となっており、いずれのサービスも「利用していない」は60.0%であった。一方、今後利用したい地域生活支援事業のサービスは「移動支援」が24.0%で最も多く、次いで「日中一時支援」が16.0%、「地域活動支援センター」が12.0%となっており、いずれのサービスも「利用希望はない」は32.0%であった。

身体障がいのある19歳以上の人で、現在利用している地域生活支援事業のサービスは「移動支援」が7.0%で最も多く、次いで「日中一時支援」と「訪問入浴サービス」がともに1.8%となっており、いずれのサービスも「利用していない」は73.4%であった。一方、今後利用したい地域生活支援事業のサービスは「移動支援」が12.2%で最も多く、次いで「日中一時支援」が6.3%、「意思疎通支援（手話通訳者・要約筆記者の派遣）」が3.6%となっており、いずれのサービスも「利用希望はない」は39.6%であった。(図2-1-4)

【図2-1-5 年齢別 自立支援給付の利用状況と利用意向（知的障がい）】

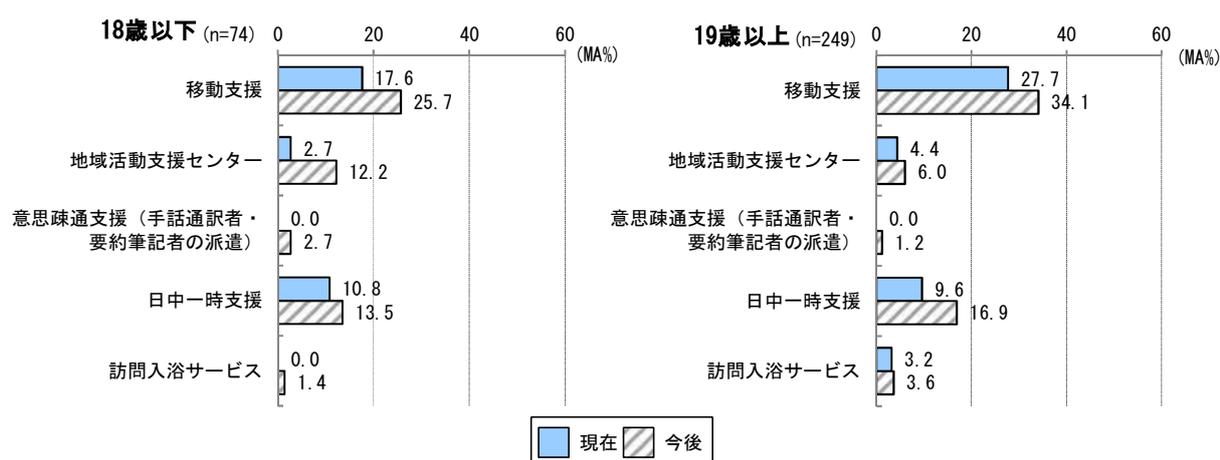


※現在は「利用している」、今後は「利用したい」と回答した割合のみ。

知的障がいのある18歳以下の人で、現在利用している自立支援給付のサービスは「計画相談支援（サービス等利用計画）」が33.8%で最も多く、次いで「短期入所（ショートステイ）」が12.2%、「居宅介護」や「生活介護」、「自立訓練（機能訓練）」が4.1%となっており、いずれのサービスも「利用していない」は48.6%であった。一方、今後利用したい自立支援給付のサービスは「計画相談支援（サービス等利用計画）」が36.5%で最も多く、次いで「短期入所（ショートステイ）」や「自立訓練（機能訓練）」、「自立訓練（生活訓練）」、「就労移行支援」は16.2%となっており、いずれのサービスも「利用希望はない」は13.5%であった。

知的障がいのある19歳以上の人で、現在利用している自立支援給付のサービスは「計画相談支援（サービス等利用計画）」が42.2%で最も多く、次いで「生活介護」が34.9%、「就労継続支援B型」が24.1%となっており、いずれのサービスも「利用していない」は6.8%であった。一方、今後利用したい自立支援給付のサービスは「計画相談支援（サービス等利用計画）」が37.3%で最も多く、次いで「短期入所（ショートステイ）」が28.5%、「生活介護」が24.9%となっており、いずれのサービスも「利用希望はない」は0.8%であった。（図2-1-5）

【図2-1-6 年齢別 地域生活支援事業の利用状況と利用意向（知的障がい）】

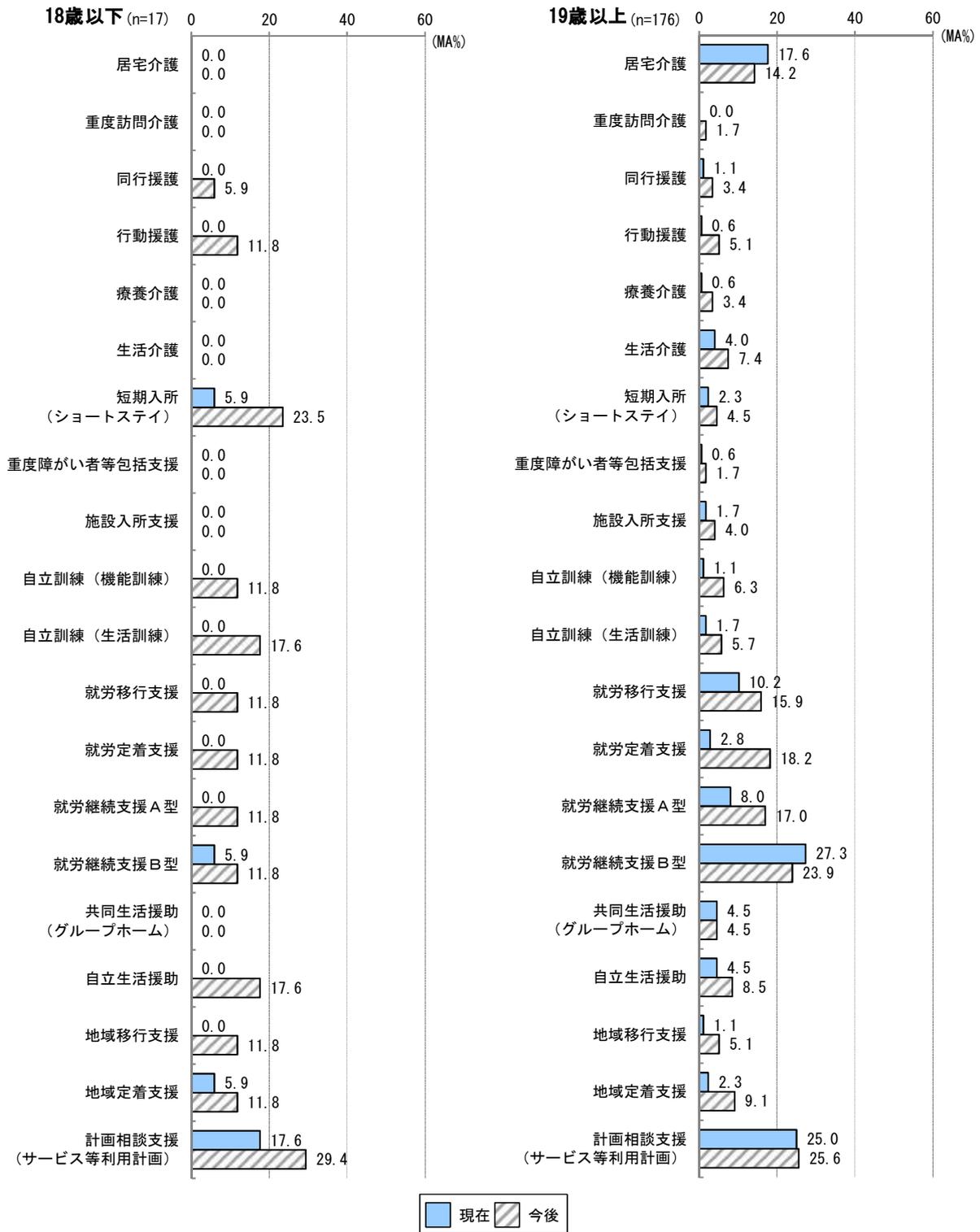


※現在は「利用している」、今後は「利用したい」と回答した割合のみ。

知的障がいのある18歳以下の人で、現在利用している地域生活支援事業のサービスは「移動支援」が17.6%で最も多く、次いで「日中一時支援」が10.8%、「地域活動支援センター」が2.7%となっており、いずれのサービスも「利用していない」は62.2%であった。一方、今後利用したい地域生活支援事業のサービスは「移動支援」が25.7%で最も多く、次いで「日中一時支援」が13.5%、「地域活動支援センター」が12.2%となっており、いずれのサービスも「利用希望はない」は25.7%であった。

知的障がいのある19歳以上の人で、現在利用している地域生活支援事業のサービスは「移動支援」が27.7%で最も多く、次いで「日中一時支援」が9.6%、「地域活動支援センター」が4.4%となっており、いずれのサービスも「利用していない」は40.2%であった。一方、今後利用したい地域生活支援事業のサービスは「移動支援」が34.1%で最も多く、次いで「日中一時支援」が16.9%、「地域活動支援センター」が6.0%となっており、いずれのサービスも「利用希望はない」は15.7%であった。（図2-1-6）

【図2-1-7 年齢別 自立支援給付の利用状況と利用意向（精神障がい）】

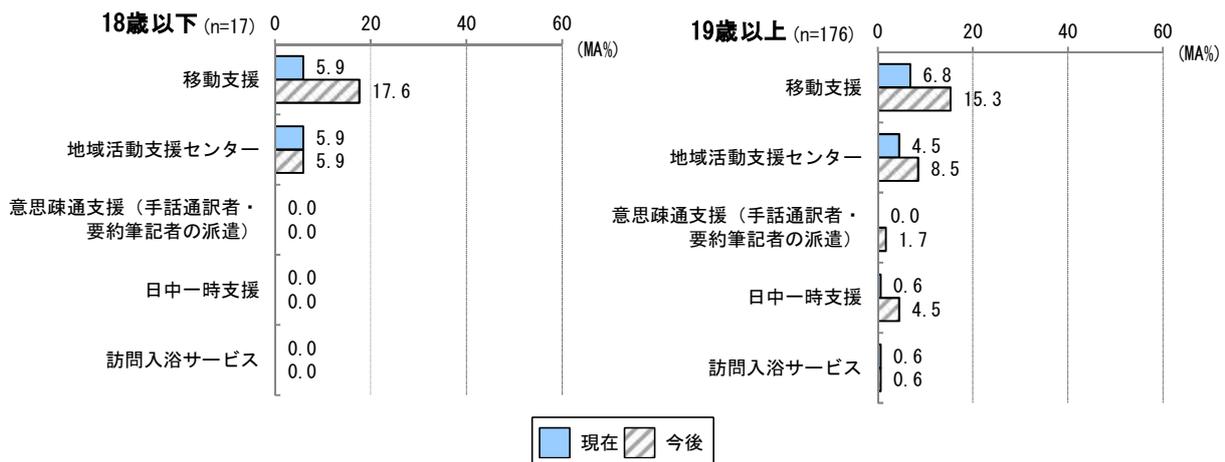


※現在は「利用している」、今後は「利用したい」と回答した割合のみ。

精神障がいのある18歳以下の人で、現在利用している自立支援給付のサービスは「計画相談支援（サービス等利用計画）」が17.6%で最も多く、次いで「短期入所（ショートステイ）」や「就労継続支援B型」、「地域定着支援」が5.9%となっており、いずれのサービスも「利用していない」は64.7%であった。一方、今後利用したい自立支援給付のサービスは「計画相談支援（サービス等利用計画）」が29.4%で最も多く、次いで「短期入所（ショートステイ）」が23.5%、「自立訓練（生活訓練）」と「自立生活援助」がともに17.6%となっており、いずれのサービスも「利用希望はない」は29.4%であった。

精神障がいのある19歳以上の人で、現在利用している自立支援給付のサービスは「就労継続支援B型」が27.3%で最も多く、次いで「計画相談支援（サービス等利用計画）」が25.0%、「居宅介護」が17.6%となっており、いずれのサービスも「利用していない」は28.4%であった。一方、今後利用したい自立支援給付のサービスは「計画相談支援（サービス等利用計画）」が25.6%で最も多く、次いで「就労継続支援B型」が23.9%、「就労定着支援」が18.2%となっており、いずれのサービスも「利用希望はない」は7.4%であった。（図2-1-7）

【図2-1-8 年齢別 地域生活支援事業の利用状況と利用意向（精神障がい）】



※現在は「利用している」、今後は「利用したい」と回答した割合のみ。

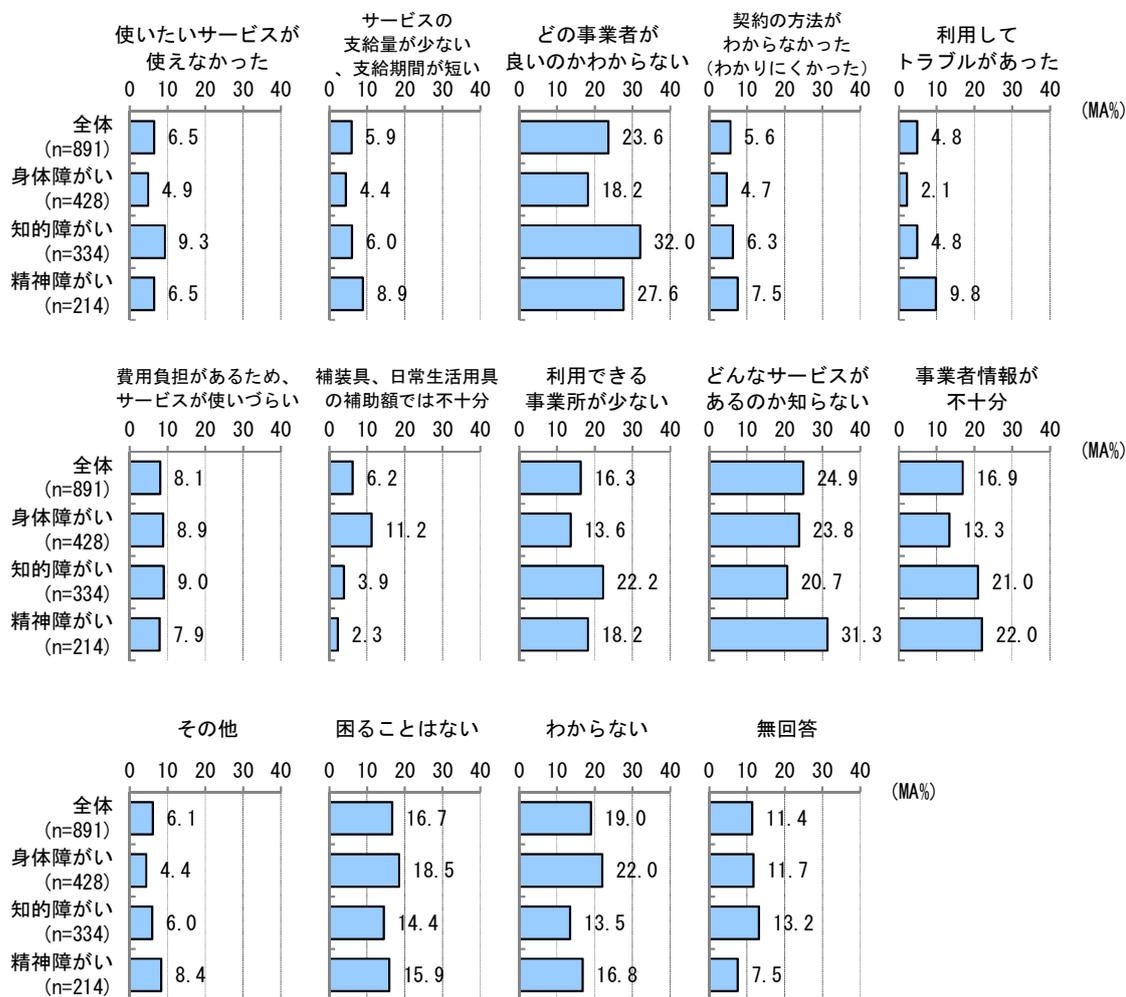
精神障がいのある18歳以下の人で、現在利用している地域生活支援事業のサービスは「移動支援」と「地域活動支援センター」がともに5.9%となっており、いずれのサービスも「利用していない」は64.7%であった。一方、今後利用したい地域生活支援事業のサービスは「移動支援」が17.6%で最も多く、次いで「地域活動支援センター」が5.9%となっており、いずれのサービスも「利用希望はない」は35.3%であった。

精神障がいのある19歳以上の人で、現在利用している地域生活支援事業のサービスは「移動支援」が6.8%で最も多く、次いで「地域活動支援センター」が4.5%、「日中一時支援」と「訪問入浴サービス」がともに0.6%となっており、いずれのサービスも「利用していない」は65.3%であった。一方、今後利用したい地域生活支援事業のサービスは「移動支援」が15.3%で最も多く、次いで「地域活動支援センター」が8.5%、「日中一時支援」が4.5%となっており、いずれのサービスも「利用希望はない」は32.4%であった。（図2-1-8）

(2) 福祉サービスを利用するとき困ること

問11 福祉サービスを利用するとき何か困ること（困ったこと）がありますか。
（あてはまるものすべてに○）

【図2-2 福祉サービスを利用するとき困ること】



福祉サービスを利用するとき困ることについて、全体では「どんなサービスがあるのかわからない」が24.9%で最も多く、次いで「どの事業者が良いのかわからない」が23.6%、「事業者情報が不十分」が16.9%となっている。

障がい種別でみると、身体障がいのある人は「どんなサービスがあるのかわからない」が23.8%で最も多く、次いで「困ることはない」が18.5%、「どの事業者が良いのかわからない」が18.2%となっている。

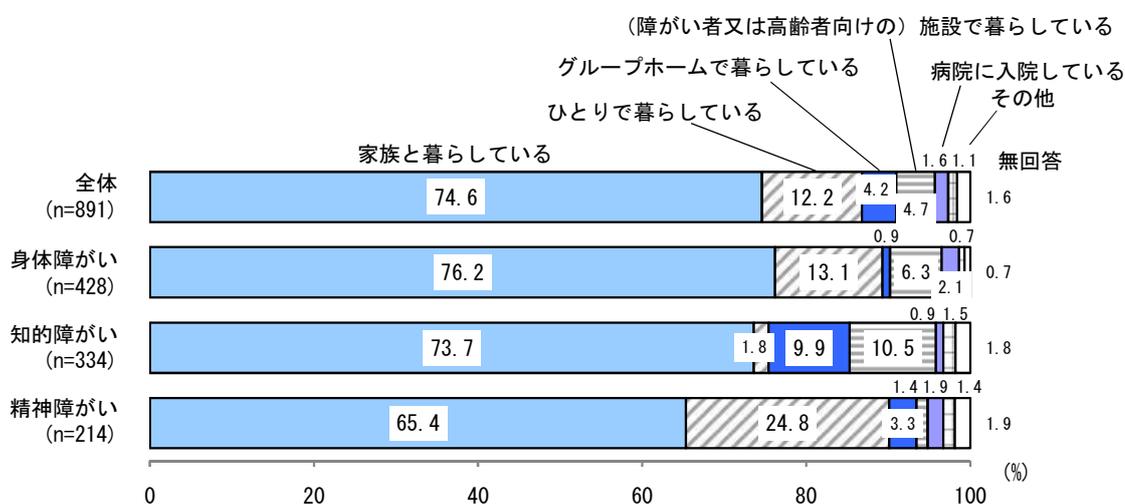
知的障がいのある人は「どの事業者が良いのかわからない」が32.0%で最も多く、次いで「利用できる事業所が少ない」が22.2%、「事業者情報が不十分」が21.0%となっている。

精神障がいのある人は「どんなサービスがあるのかわからない」が31.3%で最も多く、次いで「どの事業者が良いのかわからない」が27.6%、「事業者情報が不十分」が22.0%となっている。(図2-2)

(3) 今の暮らし方

問12 あなたは、今、どのように暮らしていますか。(1つに○)

【図2-3 今の暮らし方】



今の暮らし方について、全体では「家族と暮らしている」が74.6%で最も多く、次いで「ひとりで暮らしている」が12.2%、「(障がい者又は高齢者向けの) 施設で暮らしている」が4.7%となっている。

障がい種別でみると、身体障がいのある人は「家族と暮らしている」が76.2%で最も多く、次いで「ひとりで暮らしている」が13.1%、「(障がい者又は高齢者向けの) 施設で暮らしている」が6.3%となっている。

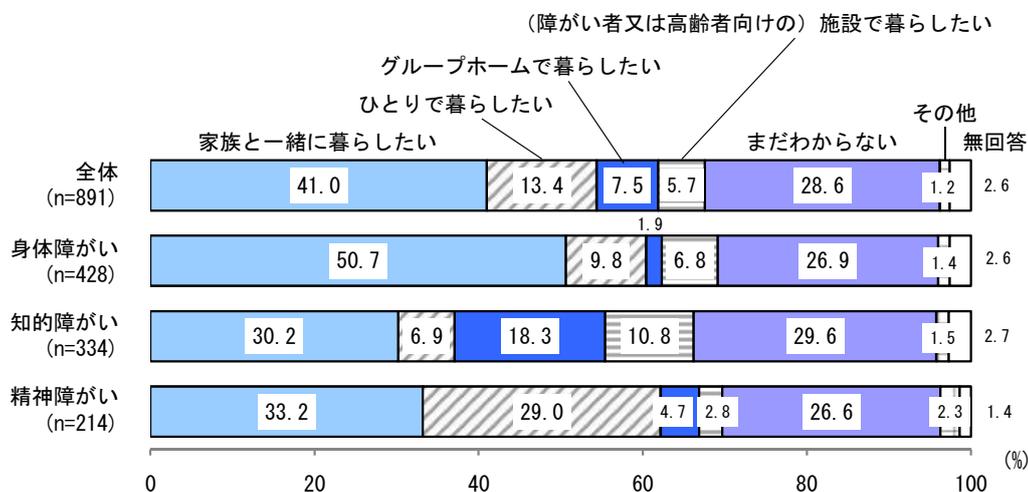
知的障がいのある人は「家族と暮らしている」が73.7%で最も多く、次いで「(障がい者又は高齢者向けの) 施設で暮らしている」が10.5%、「グループホームで暮らしている」が9.9%となっている。

精神障がいのある人は「家族と暮らしている」が65.4%で最も多く、次いで「ひとりで暮らしている」が24.8%、「グループホームで暮らしている」が3.3%となっている。(図2-3)

(4) 将来希望する暮らし方

問13 あなたは、将来どのように暮らしたいですか。(1つに○)

【図2-4 将来希望する暮らし方】



将来希望する暮らし方について、全体では「家族と一緒に暮らしたい」が41.0%で最も多く、次いで「ひとりで暮らしたい」が13.4%、「グループホームで暮らしたい」が7.5%となっている。

障がい種別でみると、身体障がいのある人は「家族と暮らしたい」が50.7%で最も多く、次いで「ひとりで暮らしたい」が9.8%、「(障がい者又は高齢者向けの) 施設で暮らしたい」が6.8%となっている。

知的障がいのある人は「家族と一緒に暮らしたい」が30.2%で最も多く、次いで「グループホームで暮らしたい」が18.3%、「(障がい者又は高齢者向けの) 施設で暮らしたい」が10.8%となっている。

精神障がいのある人は「家族と一緒に暮らしたい」が33.2%で最も多く、次いで「ひとりで暮らしたい」が29.0%、「グループホームで暮らしたい」が4.7%となっている。(図2-4)

3. 障がい児通所サービスの利用希望等について

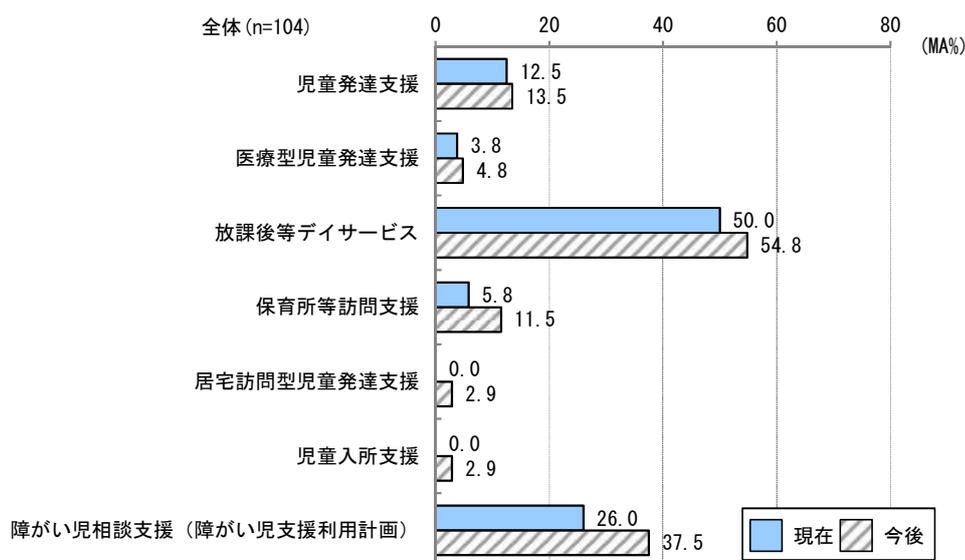
(1) 障がい児通所サービスの利用状況と利用意向

18歳以下（令和2年7月1日現在）の方におうかがいします。

問14 あなたは次の障がい児通所サービスを利用していますか。また、今後（3年以内目安）これらを利用したいという具体的な希望がありますか。

（①現在、②今後、それぞれ1つに○）

【図3-1-1 障がい児通所サービスの利用状況と利用意向（全体）】



※現在は「利用している」、今後は「利用したい」と回答した割合のみ。

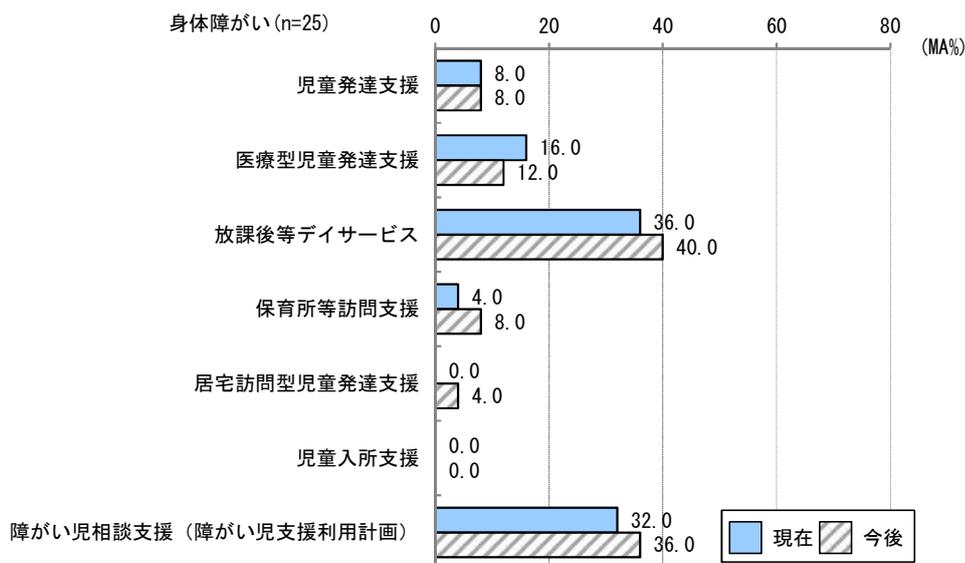
【18歳以下の人のみ回答】

障がい児通所サービスの利用状況と利用意向について、全体では、現在利用しているサービスは「放課後等デイサービス」が50.0%で最も多く、次いで「障がい児相談支援（障がい児支援利用計画）」が26.0%、「児童発達支援」が12.5%となっており、いずれのサービスも「利用していない」は29.8%であった。

一方、今後利用したいサービスは「放課後等デイサービス」が54.8%で最も多く、次いで「障がい児相談支援（障がい児支援利用計画）」が37.5%、「児童発達支援」が13.5%となっており、いずれのサービスも「利用希望はない」は15.4%であった。

（図3-1-1）

【図3-1-2 障がい児通所サービスの利用状況と利用意向（身体障がい）】



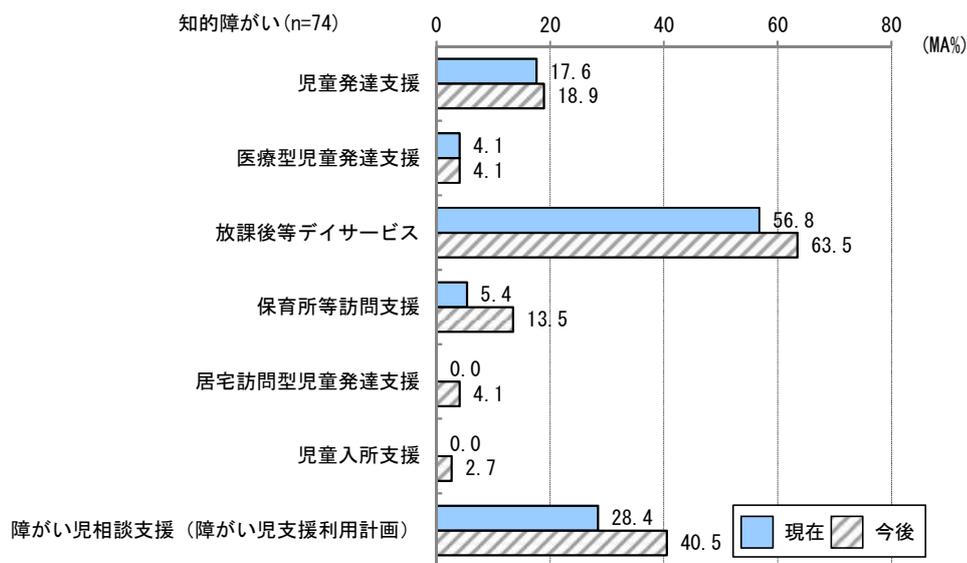
※現在は「利用している」、今後は「利用したい」と回答した割合のみ。

【18歳以下の人のみ回答】

身体障がいのある人では、現在利用しているサービスは「放課後等デイサービス」が36.0%で最も多く、次いで「障がい児相談支援（障がい児支援利用計画）」が32.0%、「医療型児童発達支援」が16.0%となっており、いずれのサービスも「利用していない」は40.0%であった。

一方、今後利用したいサービスは「放課後等デイサービス」が40.0%で最も多く、次いで「障がい児相談支援（障がい児支援利用計画）」が36.0%、「医療型児童発達支援」が12.0%となっており、いずれのサービスも「利用希望はない」は24.0%であった。（図3-1-2）

【図3-1-3 障がい児通所サービスの利用状況と利用意向（知的障がい）】



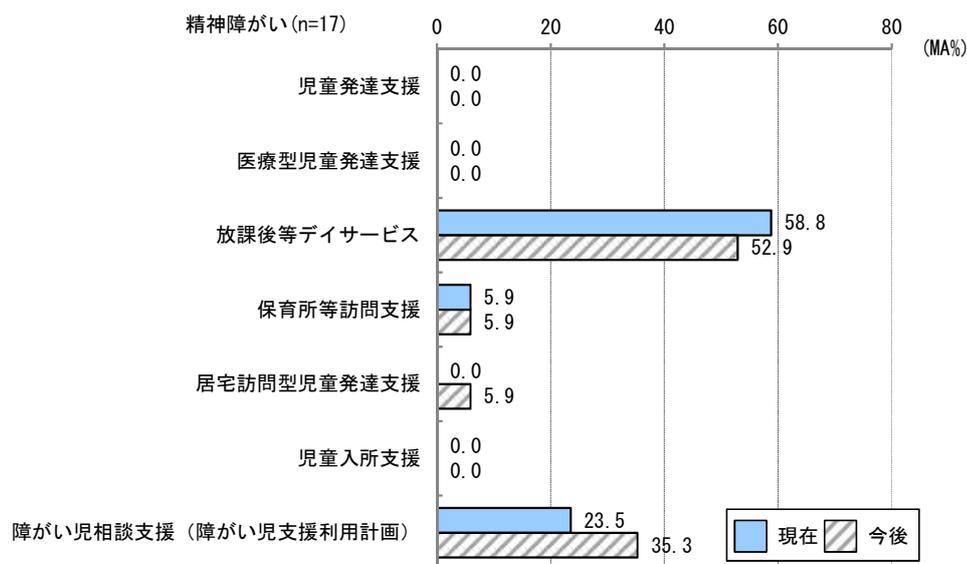
※現在は「利用している」、今後は「利用したい」と回答した割合のみ。

【18歳以下の人のみ回答】

知的障がいのある人では、現在利用しているサービスは「放課後等デイサービス」が56.8%で最も多く、次いで「障がい児相談支援（障がい児支援利用計画）」が28.4%、「児童発達支援」が17.6%となっており、いずれのサービスも「利用していない」は23.0%であった。

一方、今後利用したいサービスは「放課後等デイサービス」が63.5%で最も多く、次いで「障がい児相談支援（障がい児支援利用計画）」が40.5%、「児童発達支援」が18.9%となっており、いずれのサービスも「利用希望はない」は10.8%であった。（図3-1-3）

【図3-1-4 障がい児通所サービスの利用状況と利用意向（精神障がい）】



※現在は「利用している」、今後は「利用したい」と回答した割合のみ。

【18歳以下の人のみ回答】

精神障がいのある人では、現在利用しているサービスは「放課後等デイサービス」が58.8%で最も多く、次いで「障がい児相談支援（障がい児支援利用計画）」が23.5%、「保育所等訪問支援」が5.9%となっており、いずれのサービスも「利用していない」は29.4%であった。

一方、今後利用したいサービスは「放課後等デイサービス」が52.9%で最も多く、次いで「障がい児相談支援（障がい児支援利用計画）」が35.3%、「保育所等訪問支援」と「居宅訪問型児童発達支援」がともに5.9%となっており、いずれのサービスも「利用希望はない」は11.8%であった。(図3-1-4)

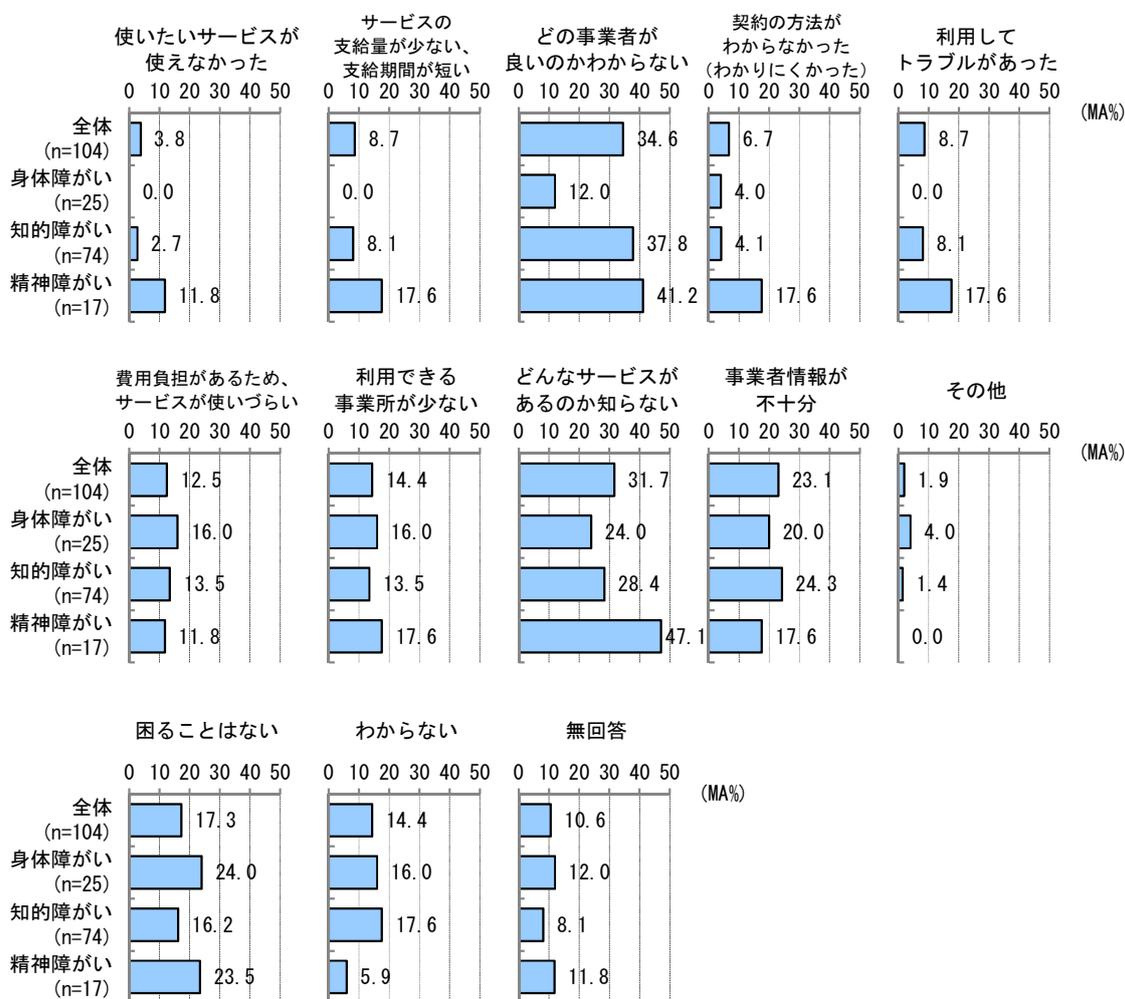
(2) 障がい児通所サービスを利用するとき困ること

18歳以下（令和2年7月1日現在）の方におうかがいします。

問15 障がい児通所サービスを利用するとき何か困ったことがありますか。

（あてはまるものすべてに○）

【図3-2 障がい児通所サービスを利用するとき困ること】



【18歳以下の人のみ回答】

障がい児通所サービスを利用するとき困ることについて、全体では「どの事業者が良いのかわからない」が34.6%で最も多く、次いで「どんなサービスがあるのかわからない」が31.7%、「事業者情報が不十分」が23.1%となっている。

障がい種別でみると、身体障がいのある人は「どんなサービスがあるのかわからない」と「困ることはない」がともに24.0%で最も多く、次いで「事業者情報が不十分」が20.0%となっている。

知的障がいのある人は「どの事業者が良いのかわからない」が37.8%で最も多く、次いで「どんなサービスがあるのかわからない」が28.4%、「事業者情報が不十分」が24.3%となっている。

精神障がいのある人は「どんなサービスがあるのかわからない」が47.1%で最も多く、次いで「どの事業者が良いのかわからない」が41.2%、「困ることはない」が23.5%となっている。

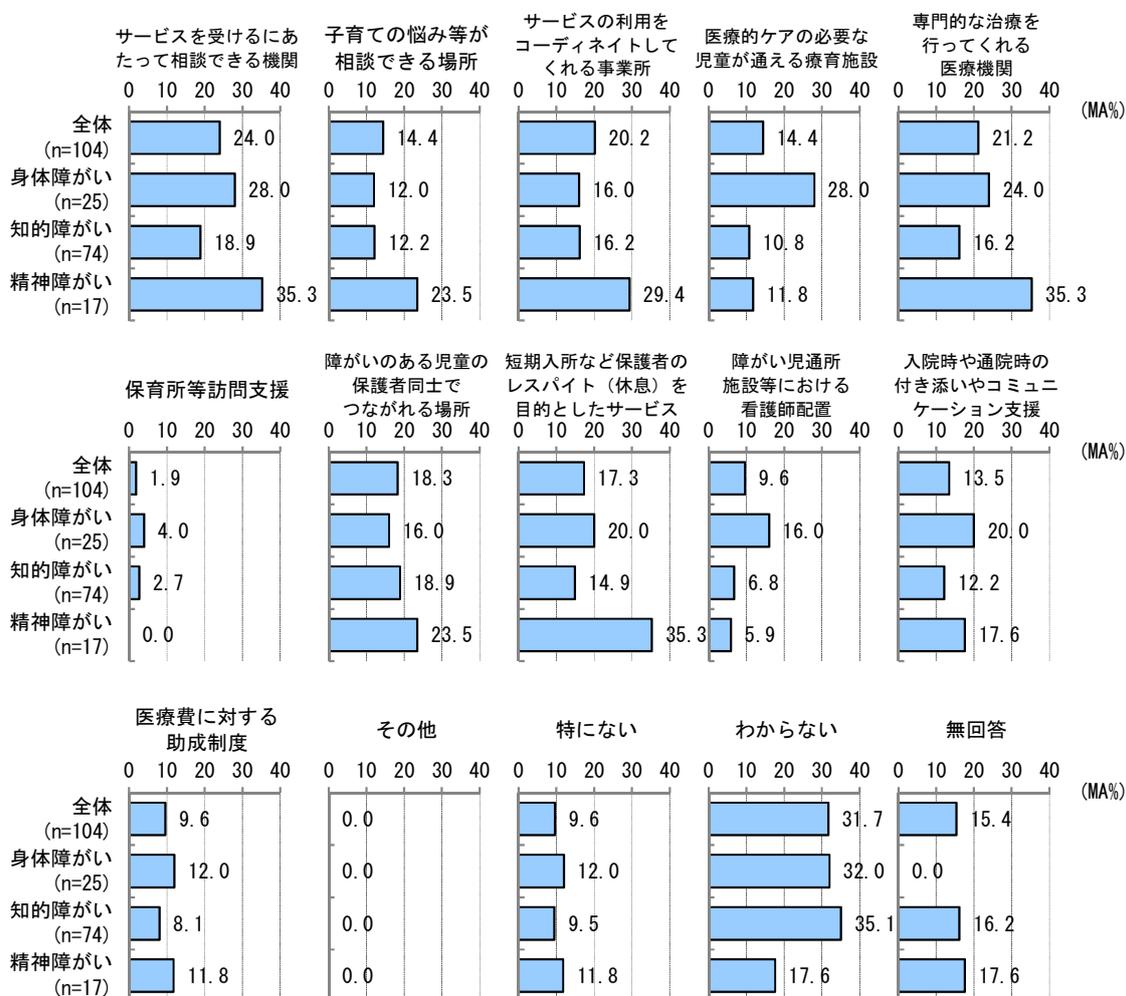
(図3-2)

(3) 医療的ケア児に不足しているサービス等

18歳以下（令和2年7月1日現在）の方におうかがいします。

問16 医療的ケアが必要な児童の支援について、不足していると感じるサービス等は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

【図3-3 医療的ケアが必要な児童の支援で不足しているサービス等】



【18歳以下の人のみ回答】

医療的ケア児に不足しているサービス等について、全体では「サービスを受けるにあたって相談できる機関」が24.0%で最も多く、次いで「専門的な治療を行ってくれる医療機関」が21.2%、「サービスの利用をコーディネートしてくれる事業所」が20.2%となっている。

障がい種別でみると、身体障がいのある人は「サービスを受けるにあたって相談できる機関」と「医療的ケアが必要な児童が通える療育施設」がともに28.0%で最も多く、続いて「専門的な治療を行ってくれる医療機関」が24.0%となっている。

知的障がいのある人は「サービスを受けるにあたって相談できる機関」と「障がいのある児童の保護者同士でつながれる場所」がともに18.9%で最も多く、続いて「サービスの利用をコーディネートしてくれる事業所」と「専門的な治療を行ってくれる医療機関」がともに16.2%となっている。

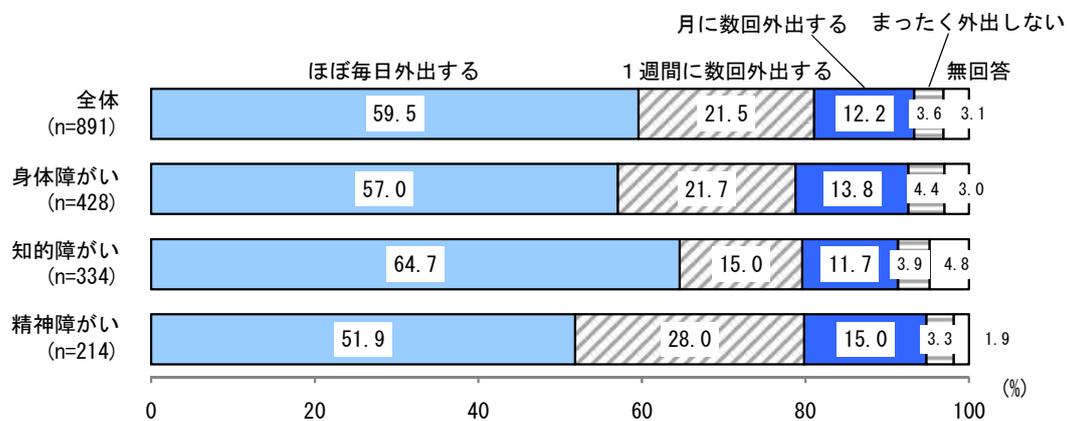
精神障がいのある人は「サービスを受けるにあたって相談できる機関」「専門的な治療を行ってくれる医療機関」「短期入所など保護者のレスパイト(休息)を目的としたサービス」のいずれも35.3%で最も多くなっている。(図3-3)

4. 外出について

(1) 1ヶ月あたりの外出頻度

問17 あなたは1ヶ月にどの程度外出しますか。(1つに○)

【図4-1 1ヶ月あたりの外出頻度】



1ヶ月あたりの外出頻度について、全体では「ほぼ毎日外出する」が59.5%で最も多く、次いで「1週間に数回外出する」が21.5%となっており、『月に数回以上外出する（「ほぼ毎日外出する」＋「1週間に数回外出する」＋「月に数回外出する」）』割合は93.2%を占めている。

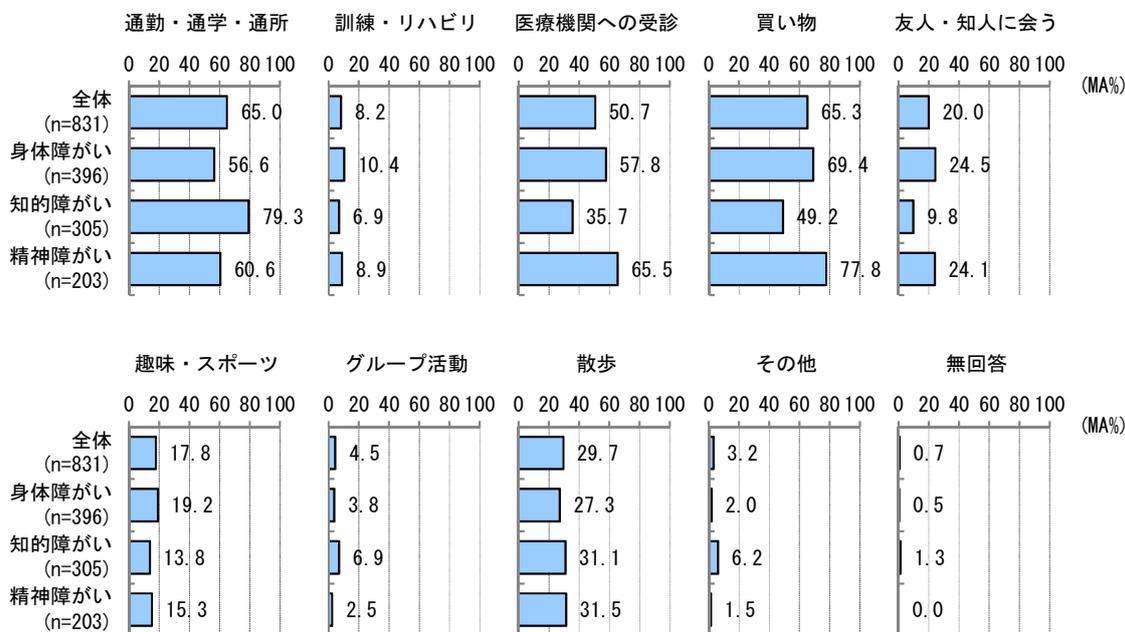
障がい種別でみると、いずれも「ほぼ毎日外出する」が過半数を占めており、特に知的障がいのある人は64.7%と高い割合になっている。(図4-1)

(2) 外出の目的

問17で「ほぼ毎日」「1週間に数回」「月に数回」のいずれかの頻度で外出すると答えた方におうかがいします。

問18 あなたは、どのような目的で外出しますか。(あてはまるものすべてに○)

【図4-2 外出の目的】



【問17でいずれかの頻度で「外出する」と答えた人のみ回答】

外出の目的について、全体では「買い物」が65.3%で最も多く、次いで「通勤・通学・通所」が65.0%、「医療機関への受診」が50.7%となっている。

障がい種別で見ると、身体障がいのある人は「買い物」が69.4%で最も多く、次いで「医療機関への受診」が57.8%、「通勤・通学・通所」が56.6%となっている。

知的障がいのある人は「通勤・通学・通所」が79.3%で最も多く、次いで「買い物」が49.2%、「医療機関への受診」が35.7%となっている。

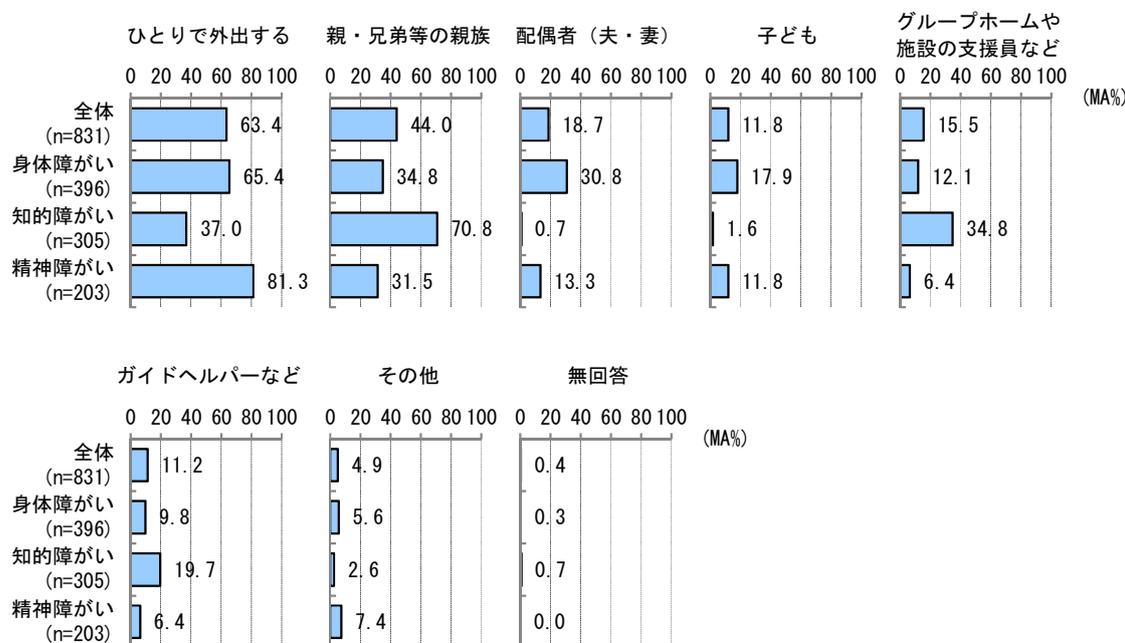
精神障がいのある人は「買い物」が77.8%で最も多く、次いで「医療機関への受診」が65.5%、「通勤・通学・通所」が60.6%となっている。(図4-2)

(3) 外出時の同伴者

問17で「ほぼ毎日」「1週間に数回」「月に数回」のいずれかの頻度で外出すると答えた方におうかがいします。

問19 あなたは、誰と外出しますか。(あてはまるものすべてに○)

【図4-3 外出時の同伴者】



【問17でいずれかの頻度で「外出する」と答えた人のみ回答】

外出時の同伴者について、全体では「ひとりで外出する」が63.4%で最も多く、次いで「親・兄弟等の親族」が44.0%、「配偶者(夫・妻)」が18.7%となっている。

障がい種別でみると、身体障がいのある人は「ひとりで外出する」が65.4%で最も多く、次いで「親・兄弟等の親族」が34.8%、「配偶者(夫・妻)」が30.8%となっている。

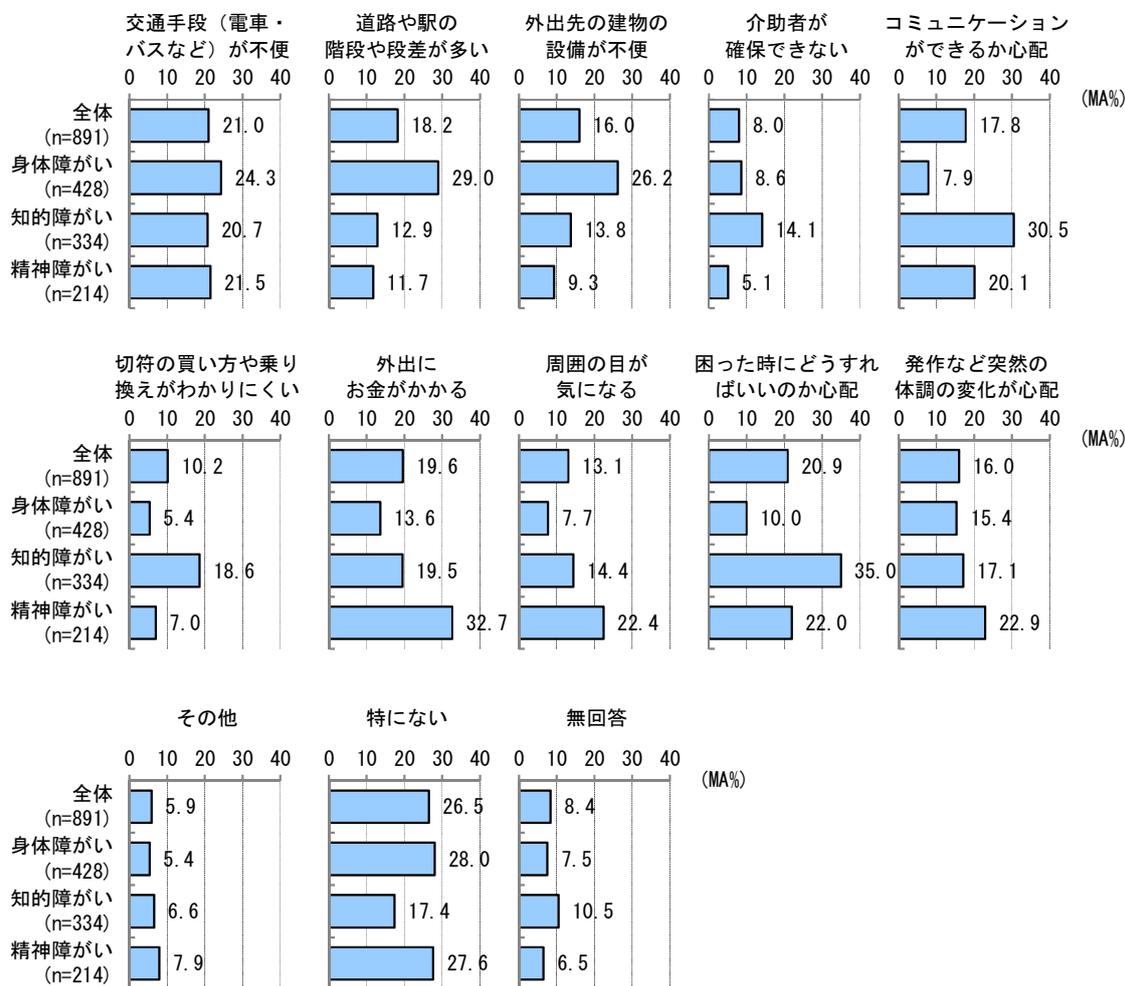
知的障がいのある人は「親・兄弟等の親族」が70.8%で最も多く、次いで「ひとりで外出する」が37.0%、「グループホームや施設の支援員など」が34.8%となっている。

精神障がいのある人は「ひとりで外出する」が81.3%で最も多く、次いで「親・兄弟等の親族」が31.5%、「配偶者(夫・妻)」が13.3%となっている。(図4-3)

(4) 外出するときに困ること

問20 外出するときに困ることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

【図4-4 外出するときに困ること】



外出するときに困ることについて、全体では「交通手段（電車・バスなど）が不便」が21.0%で最も多く、次いで「困った時にどうすればいいのか心配」が20.9%、「外出にお金がかかる」が19.6%となっている。

障がい種別でみると、身体障がいのある人は「道路や駅の階段や段差が多い」が29.0%で最も多く、次いで「外出先の建物の設備が不便」が26.2%、「交通手段（電車・バスなど）が不便」が24.3%となっている。

知的障がいのある人は「困った時にどうすればいいのか心配」が35.0%で最も多く、次いで「コミュニケーションができるか心配」が30.5%、「交通手段（電車・バスなど）が不便」が20.7%となっている。

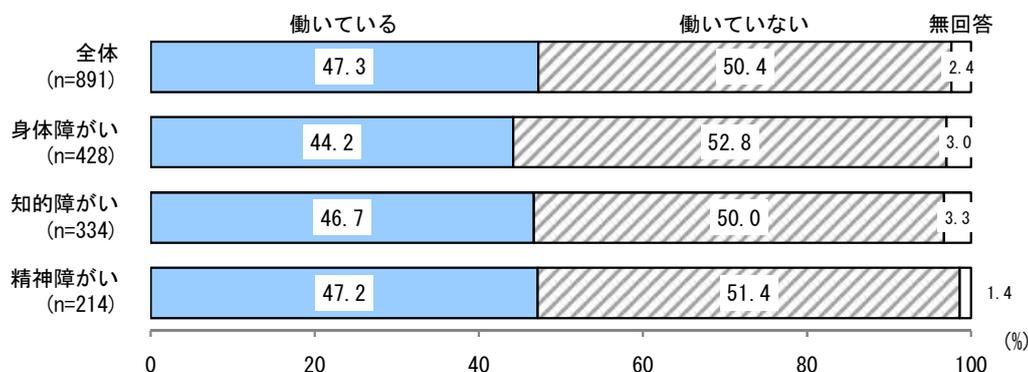
精神障がいのある人は「外出にお金がかかる」が32.7%で最も多く、次いで「発作など突然の体調の変化が心配」が22.9%、「周囲の目が気になる」が22.4%となっている。(図4-4)

5. 就労について

(1) 就労の有無

問21 あなたは現在、働いていますか。(1つに○)

【図5-1 就労の有無】



現在、働いているかについて、全体では「働いている」が47.3%、「働いていない」が50.4%で、「働いていない」人のほうが多くなっている。

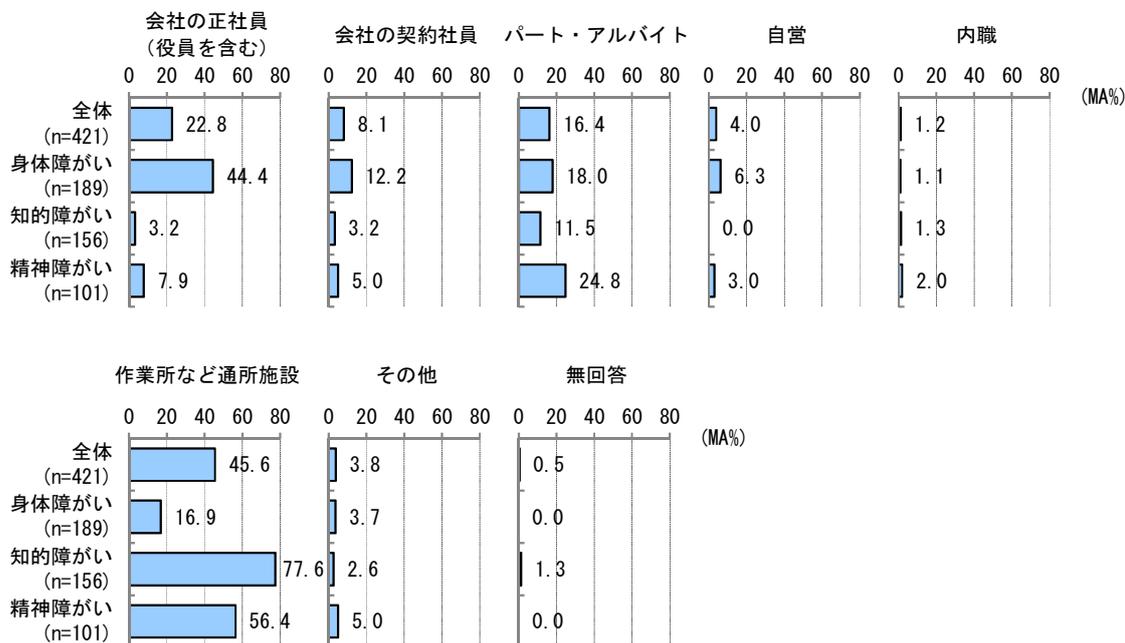
障がい種別でみると、「働いている」割合は、身体障がいのある人で44.2%、知的障がいのある人で46.7%、精神障がいのある人で47.2%となっている。(図5-1)

(2) 就業形態等

問21で「働いている」と答えた方におうかがいします。

問22 あなたの仕事の形態や場所は次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

【図5-2 就業形態や勤務地】



【問21で「働いている」と答えた人のみ回答】

就業形態等について、全体では「作業所など通所施設」が45.6%で最も多く、次いで「会社の正社員（役員を含む）」が22.8%、「パート・アルバイト」が16.4%となっている。

障がい種別でみると、身体障がいのある人は「会社の正社員（役員を含む）」が44.4%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が18.0%、「作業所など通所施設」が16.9%となっている。

知的障がいのある人は「作業所など通所施設」が77.6%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が11.5%、「会社の正社員（役員を含む）」と「会社の契約社員」が3.2%となっている。

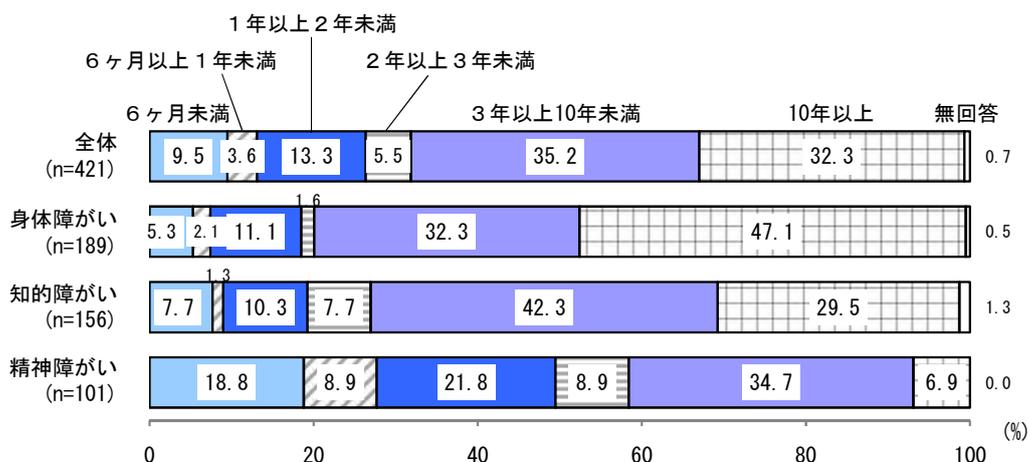
精神障がいのある人は「作業所など通所施設」が56.4%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が24.8%、「会社の正社員（役員を含む）」が7.9%となっている。（図5-2）

（3）今の職場の就業期間

問21で「働いている」と答えた方におうかがいします。

問23 あなたが今の職場で働き始めてからの期間はどのくらいですか。（1つに○）

【図5-3 今の職場の就業期間】



【問21で「働いている」と答えた人のみ回答】

今の職場の就業期間について、全体では「3年以上10年未満」が35.2%で最も多く、次いで「10年以上」が32.3%、「1年以上2年未満」が13.3%となっている。

障がい種別でみると、身体障がいのある人は「10年以上」が47.1%で最も多く、次いで「3年以上10年未満」が32.3%、「1年以上2年未満」が11.1%となっている。

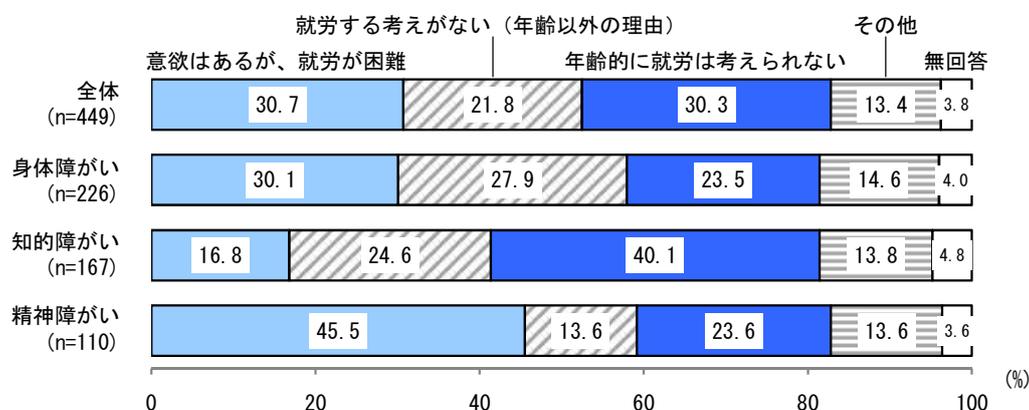
知的障がいのある人は「3年以上10年未満」が42.3%が最も多く、次いで「10年以上」が29.5%、「1年以上2年未満」が10.3%となっている。

精神障がいのある人は「3年以上10年未満」が34.7%で最も多く、次いで「1年以上2年未満」が21.8%、「6ヶ月未満」が18.8%となっている。（図5-3）

(4) 働いていない人の就労意向

問21で「働いていない」と答えた方におうかがいします。
 問24 就労に対するお考えは次のどれですか。(1つに○)

【図5-4 働いていない人の就労意向】



【問21で「働いていない」と答えた人のみ回答】

就労に対する意向について、全体では「意欲はあるが、就労が困難」が30.7%で最も多く、次いで「年齢的に就労は考えられない」が30.3%、「就労する考えがない(年齢以外の理由)」が21.8%となっている。

障がい種別でみると、身体障がいのある人は「意欲はあるが、就労が困難」が30.1%で最も多く、次いで「就労する考えがない(年齢以外の理由)」が27.9%となっている。

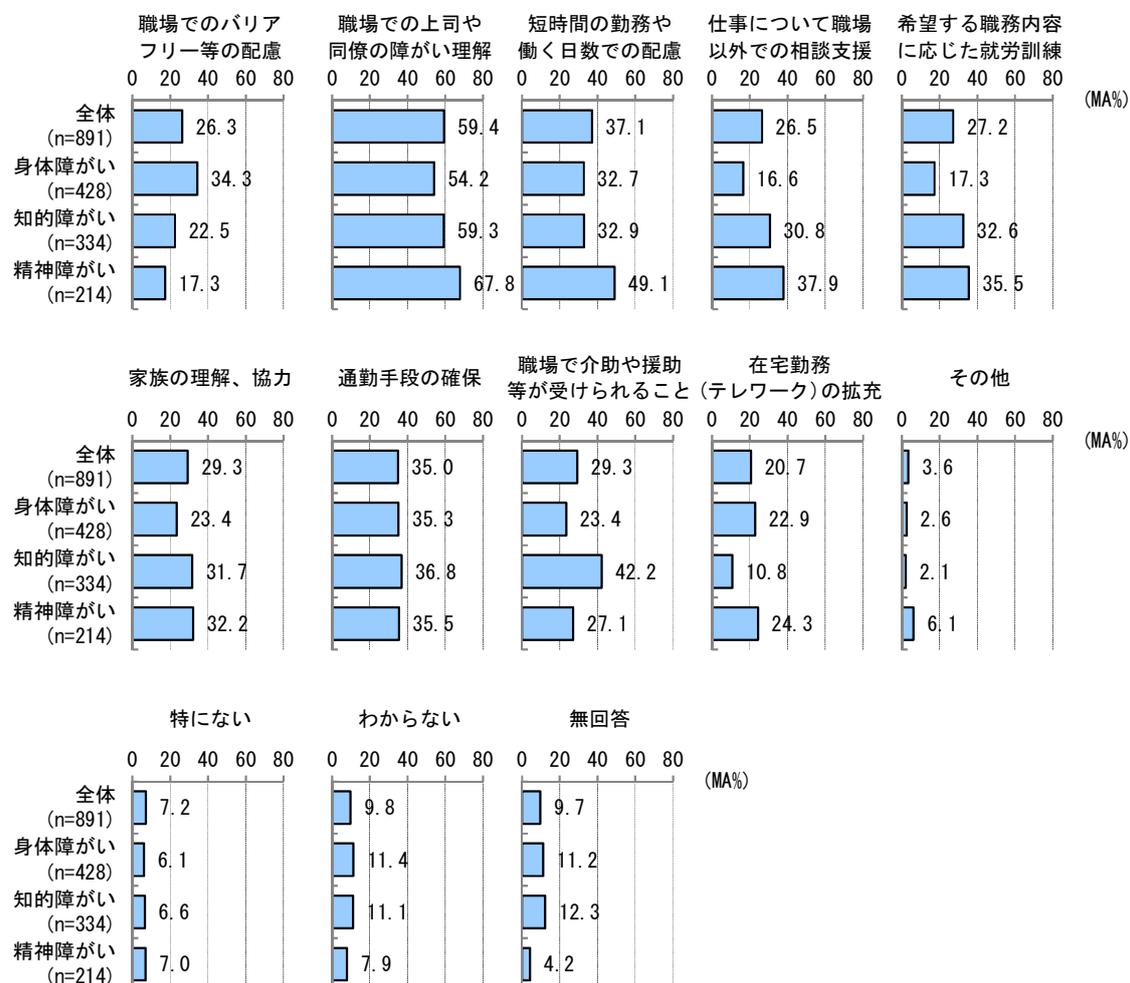
知的障がいのある人は「年齢的に就労は考えられない」が40.1%で最も多く、次いで「就労する考えがない(年齢以外の理由)」が24.6%となっている。

精神障がいのある人は「意欲はあるが、就労が困難」が45.5%で最も多く、次いで「年齢的に就労は考えられない」が23.6%となっている。(図5-4)

(5) 障がい者が就労する上で必要と思う支援

問25 障がい者が就労する上でどのような支援が必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図5-5 障がい者が就労する上で必要と思う支援】



障がい者が就労する上で必要と思う支援について、全体では「職場での上司や同僚の障がい理解」が59.4%で最も多く、次いで「短時間の勤務や働く日数での配慮」が37.1%、「通勤手段の確保」が35.0%となっている。

障がい種別でみると、身体障がいのある人は「職場での上司や同僚の障がい理解」が54.2%で最も多く、次いで「通勤手段の確保」が35.3%、「職場でのバリアフリー等の配慮」が34.3%となっている。

知的障がいのある人は「職場での上司や同僚の障がい理解」が59.3%で最も多く、次いで「職場で介助や援助等が受けられること」が42.2%、「通勤手段の確保」が36.8%となっている。

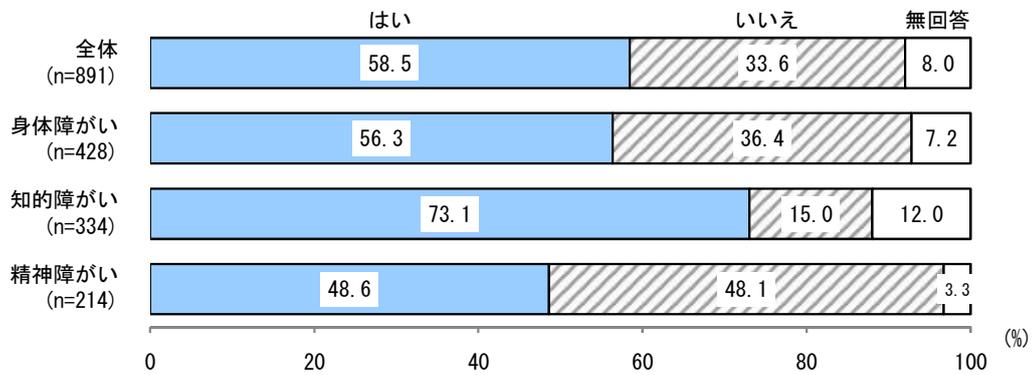
精神障がいのある人は「職場での上司や同僚の障がい理解」が67.8%で最も多く、次いで「短時間の勤務や働く日数での配慮」が49.1%、「仕事について職場以外での相談支援」が37.9%となっている。(図5-5)

6. 在宅時の介助について

(1) 介助者の有無

問26 あなたには在宅生活を支援してくれる介助者がいますか。(1つに○)

【図6-1 介助者の有無】



在宅生活を支援してくれる介助者がいるかについて、全体では「はい」が58.5%、「いいえ」が33.6%で、介助者がいる人のほうが多くなっている。

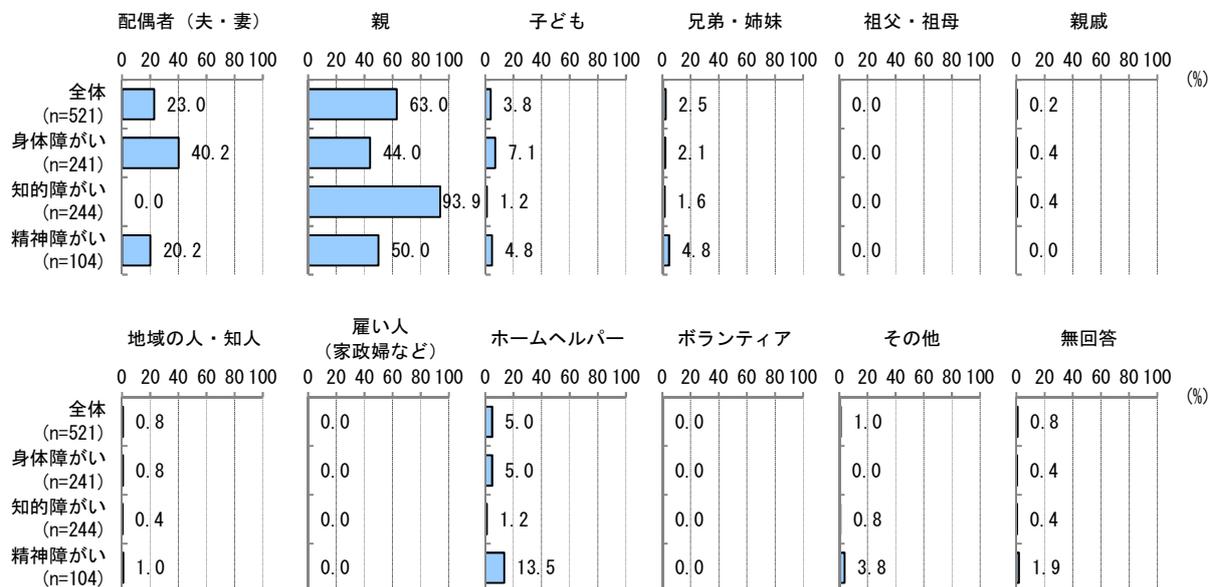
障がい種別でみると、「はい (介助者がいる)」の割合は、身体障がいのある人で56.3%、知的障がいのある人で73.1%、精神障がいのある人は48.6%となっている。(図6-1)

(2) 主な介助者の続柄・間柄

問26で「はい」と答えた方におうかがいします。

問27 主な介助者はどなたですか。(1つに○)

【図6-2 主な介助者の続柄・間柄】



【問26で「はい」(介助者がいる)と答えた人のみ回答】

主な介助者の続柄・間柄について、全体では「親」が63.0%で最も多く、次いで「配偶者(夫・妻)」が23.0%、「ホームヘルパー」が5.0%となっている。

障がい種別でみると、身体障がいのある人は「親」が44.0%で最も多く、次いで「配偶者(夫・妻)」が40.2%、「子ども」が7.1%となっている。

知的障がいのある人は「親」が93.9%で最も多い。

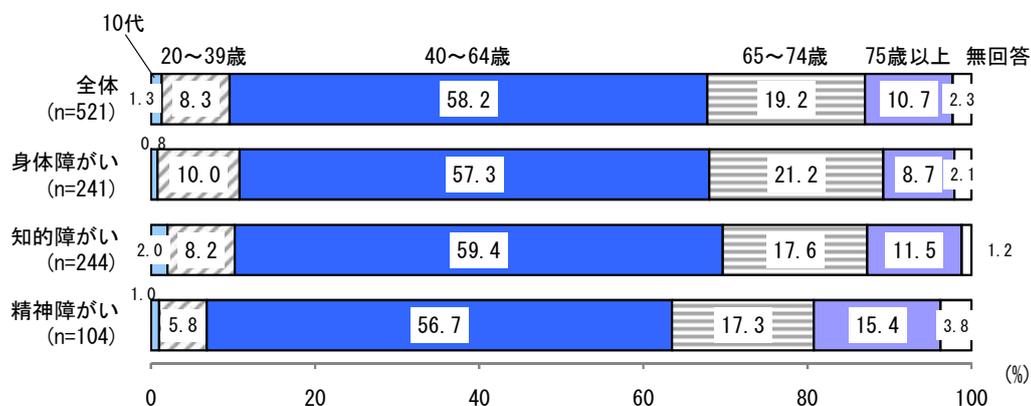
精神障がいのある人は「親」が50.0%で最も多く、次いで「配偶者(夫・妻)」が20.2%、「ホームヘルパー」が13.5%となっている。(図6-2)

(3) 主な介助者の年齢

問26で「はい」と答えた方におうかがいします。

問28 介助者の年齢をおうかがいします。(令和2年7月1日現在)(1つに〇)

【図6-3 主な介助者の年齢】



【問26で「はい」(介助者がいる)と答えた人のみ回答】

主な介助者の年齢について、全体では「40~64歳」が58.2%で最も多くなっている。これに続いて「65~74歳」が19.2%、「75歳以上」が10.7%となっており、『(介助者が)65歳以上』である割合は29.9%となっている。

障がい種別でみると、身体障がいのある人の介助者は「40~64歳」が57.3%で最も多く、『65歳以上』の割合は29.9%となっている。

知的障がいのある人の介助者は「40~64歳」が59.4%で最も多く、『65歳以上』の割合は29.1%となっている。

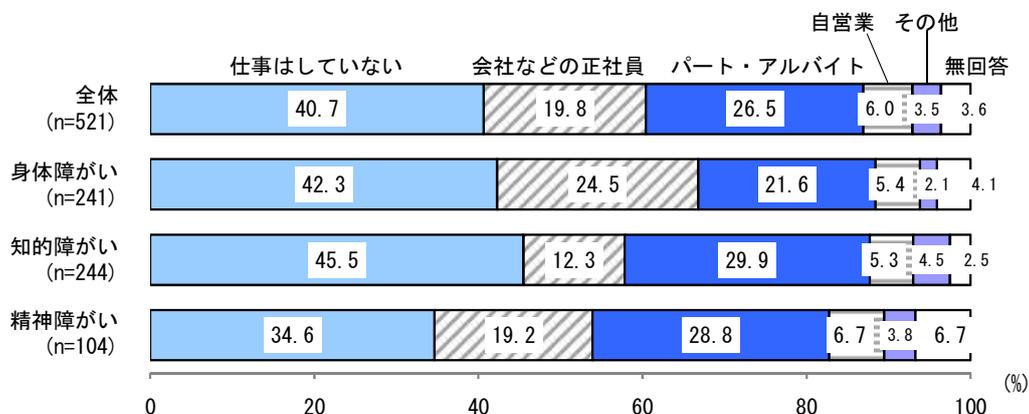
精神障がいのある人の介助者は「40~64歳」が56.7%で最も多く、『65歳以上』の割合は32.7%となっている。(図6-3)

(4) 主な介助者の就労状況

問26で「はい」と答えた方におうかがいします。

問29 介助者は、現在お仕事をもちですか。(1つに○)

【図6-4 主な介助者の就労状況】



【問26で「はい」(介助者がいる)と答えた人のみ回答】

主な介助者の就労状況について、全体では「仕事はしていない」が40.7%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が26.5%、「会社などの正社員」が19.8%となっている。

障がい種別でみると、身体障がいのある人の介助者は「仕事はしていない」が42.3%で最も多く、次いで「会社などの正社員」が24.5%、「パート・アルバイト」が21.6%となっている。

知的障がいのある人の介助者は「仕事はしていない」が45.5%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が29.9%、「会社などの正社員」が12.3%となっている。

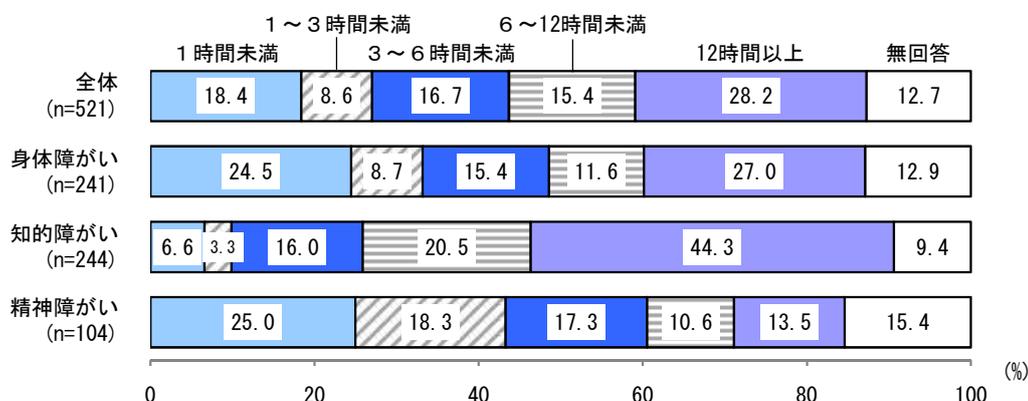
精神障がいのある人の介助者は「仕事はしていない」が34.6%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が28.8%、「会社などの正社員」が19.2%となっている。(図6-4)

(5) 介助や見守りを受ける1日あたりの平均時間

問26で「はい」と答えた方におうかがいします。

問30 1日平均何時間ぐらい介助や見守りを受けていますか。(1つに○)

【図6-5 介助や見守りを受ける1日あたりの平均時間】



【問26で「はい」(介助者がいる)と答えた人のみ回答】

介助や見守りを受ける1日あたりの平均時間について、全体では「12時間以上」が28.2%で最も多く、次いで「1時間未満」が18.4%、「3~6時間未満」が16.7%となっている。

障がい種別でみると、身体障がいのある人は「12時間以上」が27.0%で最も多く、次いで「1時間未満」が24.5%、「3~6時間未満」が15.4%となっている。

知的障がいのある人は「12時間以上」が44.3%で最も多く、次いで「6~12時間未満」が20.5%、「3~6時間未満」が16.0%となっている。

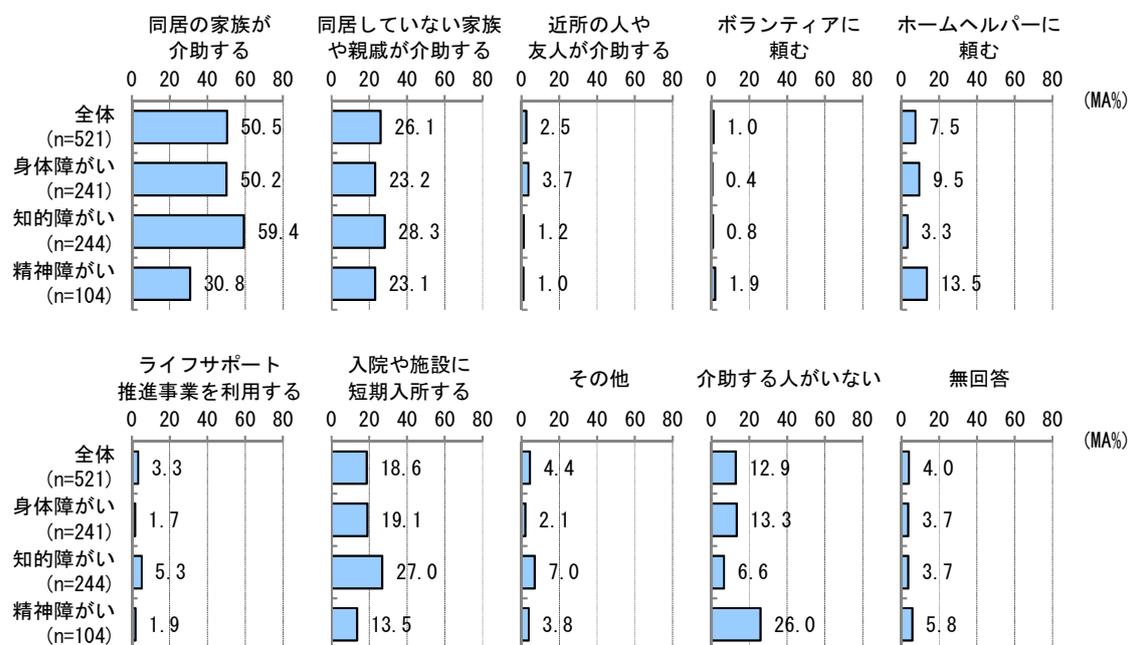
精神障がいのある人は「1時間未満」が25.0%で最も多く、次いで「1~3時間未満」が18.3%、「3~6時間未満」が17.3%となっている。(図6-5)

(6) 一時的に介助者が介助できなくなった場合の対応

問26で「はい」と答えた方におうかがいします。

問31 急病など一時的に介助者が介助できなくなった場合など、どのような対応をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

【図6-6 一時的に介助者が介助できなくなった場合の対応】



【問26で「はい」(介助者がいる)と答えた人のみ回答】

一時的に介助者が介助できなくなった場合の対応について、全体では「同居の家族が介助する」が50.5%で最も多く、次いで「同居していない家族や親戚が介助する」が26.1%、「入院や施設に短期入所する」が18.6%となっている。

障がい種別でみると、身体障がいのある人は「同居の家族が介助する」50.2%で最も多く、次いで「同居していない家族や親戚が介助する」が23.2%、「入院や施設に短期入所する」が19.1%となっている。

知的障がいのある人は「同居の家族が介助する」が59.4%で最も多く、次いで「同居していない家族や親戚が介助する」が28.3%、「入院や施設に短期入所する」が27.0%となっている。

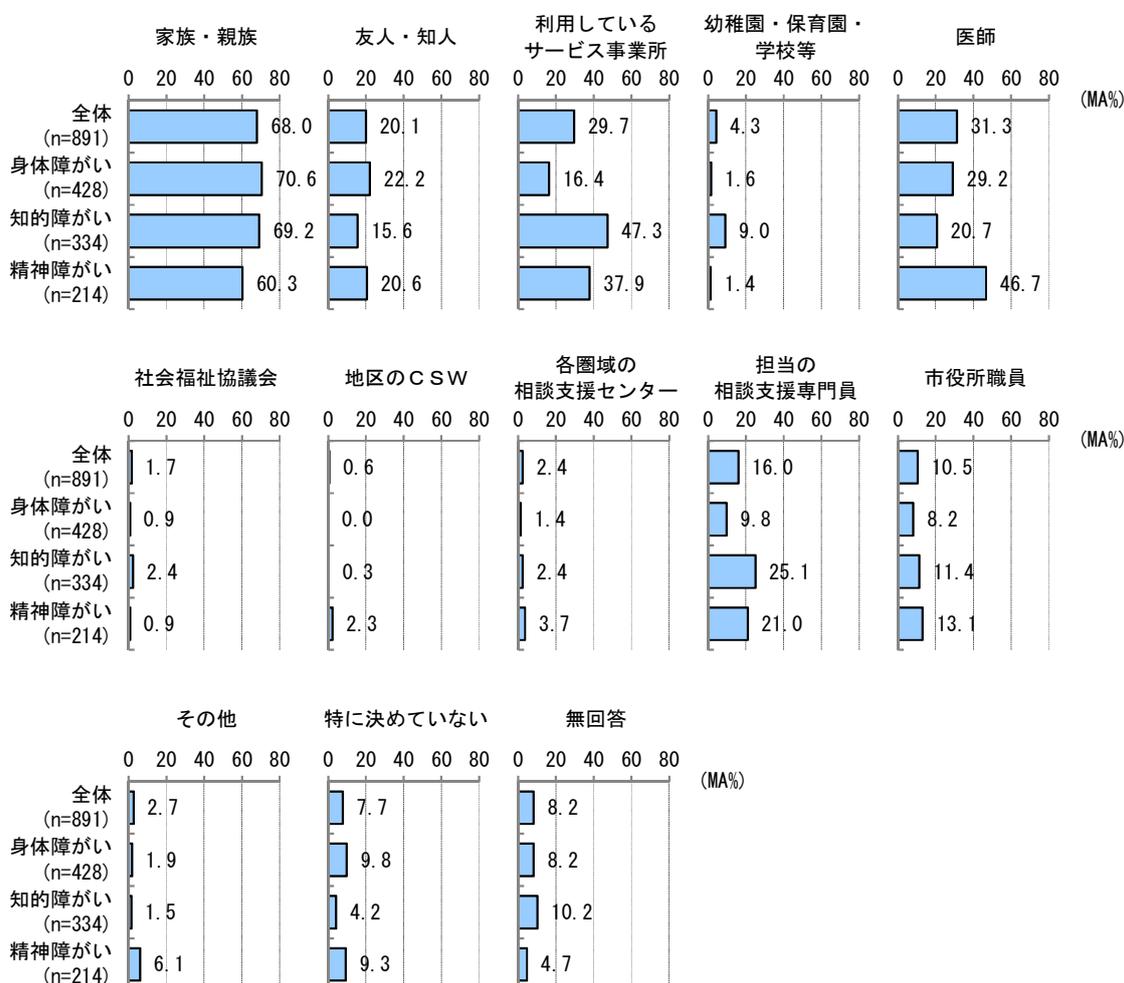
精神障がいのある人は「同居の家族が介助する」が30.8%で最も多く、次いで「介助する人がいない」が26.0%、「同居していない家族や親戚が介助する」が23.1%となっている。

(図6-6)

(7) 困りごとなどの相談相手

問32 困りごとや不安に思っていることを相談するのはどなたですか。
(あてはまるものすべてに○)

【図6-7 困りごとなどの相談相手】



困りごとなどの相談相手について、全体では「家族・親族」が68.0%で最も多く、次いで「医師」が31.3%、「利用しているサービス事業所」が29.7%となっている。

障がい種別でみると、身体障がいのある人は「家族・親族」が70.6%で最も多く、次いで「医師」が29.2%、「友人・知人」が22.2%となっている。

知的障がいのある人は「家族・親族」が69.2%で最も多く、次いで「利用しているサービス事業所」が47.3%、「担当の相談支援専門員」が25.1%となっている。

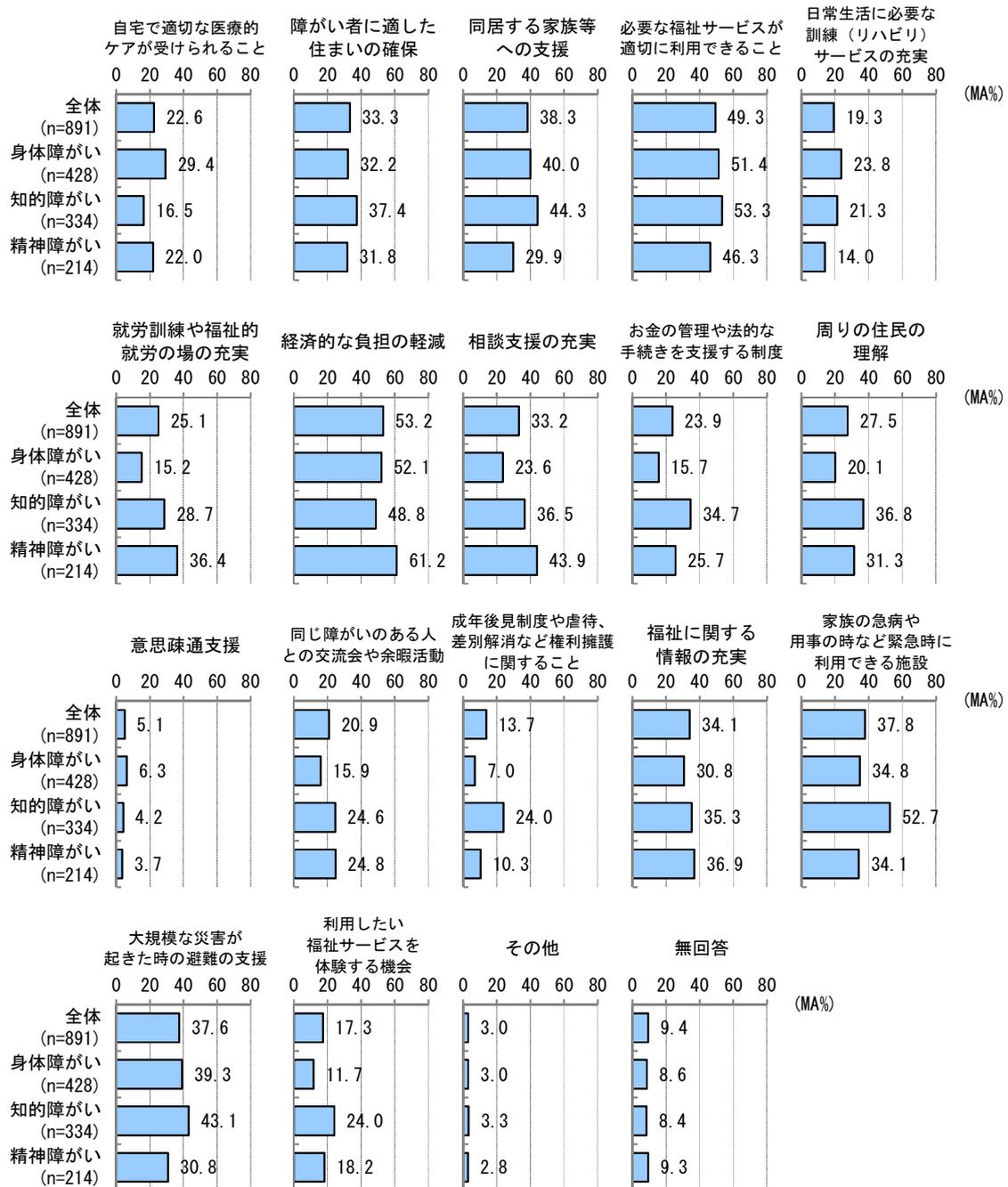
精神障がいのある人は「家族・親族」が60.3%で最も多く、次いで「医師」が46.7%、「利用しているサービス事業所」が37.9%となっている。(図6-7)

7. 地域での生活について

(1) 住み慣れた地域で生活するために希望する支援

問33 あなたが住み慣れた地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

【図7-1 住み慣れた地域で生活するために希望する支援】



住み慣れた地域で生活するために希望する支援について、全体では「経済的な負担の軽減」が53.2%で最も多く、次いで「必要な福祉サービスが適切に利用できること」が49.3%、「同居する家族等への支援」が38.3%となっている。

障がい種別でみると、身体障がいのある人は「経済的な負担の軽減」が52.1%で最も多く、次いで「必要な福祉サービスが適切に利用できること」が51.4%、「同居する家族等への支援」が40.0%となっている。

知的障がいのある人は「必要な福祉サービスが適切に利用できること」が53.3%で最も多く、次いで「家族の急病や用事の時など緊急時に利用できる施設」が52.7%、「経済的な負担の軽減」が48.8%となっている。

精神障がいのある人は「経済的な負担の軽減」が61.2%で最も多く、次いで「必要な福祉サービスが適切に利用できること」が46.3%、「相談支援の充実」が43.9%となっている。

(図7-1)